愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2007年度 —

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2009

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

―― 2007年度 ――

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2009

序　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、本部事務局と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡がある。愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。そうした試掘・立会・確認調査の小規模調査についての成果報告と、大規模な全面調査の概要報告をまとめ、年度ごとの事業報告を加えて、埋蔵文化財調査室年報を刊行してきた。本書は、その2007年度の報告である。

本書をまとめるにあたっては、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

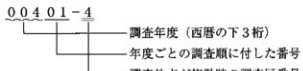
平成21年１月５日

愛媛大学埋蔵文化財調査室
室長　田　崎　博　之

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2007年度に実施した事業、大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果と全面調査の概要を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅨにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めた、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、欄列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄・濱田美加が作成し浄写を行った。

7．本書に使用した遺物図は、濱田が作成し浄写を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉・濱田が撮影した。

9．本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、田崎が編集を行った。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会 …… 1
2　2007年度の埋蔵文化財調査室事業 …… 1
（1）発掘調査と整理作業
（2）発掘調査報告書・埋蔵文化財調査室年報の刊行
（3）広報、資料等の利活用
3　愛媛大学構内遺跡の確認状況 …… 6

Ⅱ　2007年度実施の発掘調査

00701　（城北団地）共通教育講義棟耐震補強工事計画に伴う試掘調査 …… 13
00702　（持田団地）教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 16
00703　（城北団地）法文学部講義棟耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 21
00704　（城北団地）工学部2号館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 23
00705　（城北団地）教育学部2号館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 24
00706　（城北団地）附属図書館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 29
00707　（城北団地）共通教育管理棟耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査 …… 36
00708　（城北団地）弓道場的場防矢ネット取設工事に伴う試掘調査 …… 48
00709　（持田団地）教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事に伴う全面調査
（持田団地構内遺跡2次調査） …… 54
00710　（城北団地）附属図書館耐震改修その他工事に伴う全面調査（文京遺跡32次調査） …… 58
00711　（城北団地）法文学部講義棟耐震補強工事に伴う全面調査（文京遺跡33次調査） …… 66
00712　（城北団地）共通教育管理棟耐震改修その他工事に伴う全面調査（文京遺跡34次調査） …… 72
00713　（樽味団地）農学部制御化農薬実験実習棟外上水道引込工事に伴う試掘調査 …… 83
00714　（樽味団地）農学部育成ハウス設置工事に伴う立会調査 …… 86
00715　（御幸団地）2007年度構内遺跡確認調査 …… 87

挿図目次

図1　愛媛大学主要団地位置図（縮尺1／200,000、平成17年４月１日国土地理院発行1：200,000松山に加筆）……3
図2　城北団地（文京遺跡）における2007年度調査地点（縮尺1／3,500）……6-7
図3　持田団地（持田団地構内遺跡）における2007年度調査地点（縮尺1／2,000）……7
図4　樽味団地（樽味遺跡）における2007年度調査地点（縮尺1／2,000）……8
図5　御幸団地における2007年度調査地点（縮尺1／1,000）……9
図6　00701調査地点位置図（縮尺1／500）……13
図7　00701調査１～４トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……14
図8　00702調査地点位置図（縮尺1／500）……17
図9　00702調査１～３トレンチ土層断面図（縮尺1／50）……19
図10　00703調査地点位置図（縮尺1／500）……21
図11　00703調査トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……22
図12　00704調査地点位置図（縮尺1／500）……23
図13　00704調査トレンチ東壁土層断面図（縮尺1／50）……24
図14　00705調査地点位置図（縮尺1／500）……25
図15　00705調査１～４トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……26
図16　00705調査５トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……29
図17　00706調査地点位置図（縮尺1／1,000）……30
図18　00706調査１トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……30
図19　00706調査２トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……31
図20　00706調査３トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……32
図21　00706調査４トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……32
図22　00706調査５・６トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……35
図23　00707調査地点位置図（縮尺1／1,000）……37
図24　00707調査１～３トレンチ平面図・土層断面図及び文京遺跡14次調査土層断面図（縮尺1／50）……38
図25　00707調査４・５トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……41
図26　00707調査６トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……43
図27　00707調査７トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……45
図28　共通教育管理棟周辺における調査地点及び東西地形・土層断面図（縮尺1／750、1／75）…47
図29　00708調査地点位置図（縮尺1／500）……49
図30　00708調査１～３トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50）……50
図31　00709調査地点位置図（縮尺1／1,000）……55
図32　00709調査平面図・土層断面図（縮尺1／200、1／100）……57
図33　00710・00711調査地点位置図（縮尺1／500）……59
図34　00710調査１トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50、1／100）……60
図35　00710調査出土遺物実測図（縮尺1／3）……61
図36　00710調査２～４トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1／50、1／100）……64
図37　00711調査Ⅲ層及びⅣ層上面出土遺構配置図、余掘り壁面土層断面図（縮尺1／100）……68-69
図38　00711調査Ⅳ層遺構配置図、調査区北壁土層断面図（縮尺1／50、1／100）……70-71
図39　00712調査地点位置図（縮尺1／500）……73
図40　00712調査Ⅰ～Ⅲ区平面図及び土層断面図（縮尺1／120、1／50）……74-75
図41　00712調査Ⅳ区平面図及び土層断面図（縮尺1／100、1／50）……75
図42　00712調査Ⅴ～Ⅸ区平面図及び土層断面図（縮尺1／120、1／50）……76-77
図43　0712調査Ⅹ区平面図及び土層断面図（縮尺1／100、1／50）……79
図44　00713・00714調査地点位置図（縮尺1／1,000）……84

図45　00713調査、樽味７次Ⅳ・Ⅴ区位置図及び土層断面図（縮尺1／300、1／100）……85
図46　00714調査地点位置図及び土層断面図（縮尺1／300、1／50）……88
図47　00715調査地点位置図及び周辺土層断面図（縮尺1／500、1／50）……90-91
図48　00715調査２～７トレンチ実測図（縮尺1／50）……90-91

写真目次

写真１　公開講座で土器を観察する受講生……6
写真２　臨地授業で土層堆積状況を講義……6
写真３　00701調査１トレンチ近景（北東から）…15
写真４　00701調査１トレンチ完掘状況（北東から）……15
写真５　00701調査２トレンチ近景（北東から）…15
写真６　00701調査２トレンチ完掘状況（北東から）……15
写真７　00701調査３トレンチ近景（南西から）…15
写真８　00701調査３トレンチ完掘状況（東から）……15
写真９　00701調査４トレンチ近景（南東から）…15
写真10　00701調査４トレンチ完掘状況（南東から）……15
写真11　00702調査１トレンチ遠景（東から）……20
写真12　00702調査１トレンチ土層断面（南西から）……20
写真13　00702調査２トレンチ遠景（西から）……20
写真14　00702調査２トレンチ全景（東から）……20
写真15　00702調査２トレンチ南半部西壁土層断面（北東から）……20
写真16　00702調査２トレンチ北半部西壁土層断面（東から）……20
写真17　00702調査３トレンチ遠景（東から）……20
写真18　00702調査３トレンチ土層断面（東から）……20
写真19　00703調査地点遠景（北東から）……22
写真20　00703調査トレンチ土層断面（西から）…22
写真21　00704調査地点遠景（北東から）……24
写真22　00704調査トレンチ東壁土層断面（西から）……24
写真23　00705調査１トレンチ遠景（南から）……27
写真24　00705調査１トレンチ土層断面（東から）……27
写真25　00705調査２トレンチ遠景（西から）……27
写真26　00705調査２トレンチ土層断面（東から）……27
写真27　00705調査３・４トレンチ遠景（東から）……27
写真28　00705調査３トレンチ土層断面（東から）……27
写真29　00705調査４トレンチ（東から）……27
写真30　00705調査５トレンチ遠景（北東から）…27
写真31　00705調査５トレンチ土層断面（東から）……28
写真32　00705調査５トレンチ東半部土層断面（東から）……28
写真33　00706調査１トレンチ遠景（南から）……33
写真34　00706調査１トレンチ全景（南西から）…33
写真35　00706調査１トレンチ北半部土層断面（西から）……33
写真36　00706調査１トレンチ南半部土層断面（北西から）……33
写真37　00706調査２トレンチ遠景（北西から）…33
写真38　00706調査２トレンチ土層断面（北から）……33
写真39　00706調査３トレンチ遠景（北から）……33
写真40　00706調査３トレンチ全景（北東から）…33
写真41　00706調査３トレンチ東半部土層断面（北から）……34
写真42　00706調査３トレンチ西半部土層断面（北から）……34
写真43　00706調査４トレンチ遠景（北東から）…34
写真44　00706調査４トレンチ土層断面（北東から）……34
写真45　00706調査５トレンチ遠景（南東から）…34
写真46　00706調査５トレンチ全景（南東から）…34
写真47　00706調査６トレンチ遠景（南東から）…34

写真48　00706調査６トレンチ南半部土層断面（東から）……34
写真49　00707調査１トレンチ遠景（東から）……40
写真50　00707調査１トレンチ全景（北西から）…40
写真51　00707調査１トレンチ東端土層断面（北から）……40
写真52　00707調査１トレンチ西半部土層断面（北東から）……40
写真53　00707調査２トレンチ全景（北から）……40
写真54　00707調査２トレンチ西半部土層断面（北から）……40
写真55　00707調査３トレンチ遠景（南から）……40
写真56　00707調査３トレンチ土層断面（西から）……40
写真57　00707調査４トレンチ遠景（北東から）…42
写真58　00707調査４トレンチ土層断面（北から）……42
写真59　00707調査５トレンチ遠景（北西から）…42
写真60　00707調査５トレンチ土層断面（東から）……42
写真61　00707調査６トレンチ遠景（南東から）…44
写真62　00707調査６トレンチ全景（南東から）…44
写真63　00707調査６トレンチ西端土層断面（南東から）……44
写真64　00707調査６トレンチ東半部土層断面（南東から）……44
写真65　00707調査６トレンチ東端土層断面（南から）……44
写真66　00707調査６トレンチ東端土壌採取（南東から）……44
写真67　00707調査７トレンチ遠景（南西から）…44
写真68　00707調査７トレンチ土層断面（南から）……44
写真69　00708調査１・２トレンチ遠景（南東から）……51
写真70　00708調査１トレンチⅢ層検出状況（北から）……51
写真71　00708調査１トレンチ SC-５床面（北東から）……51
写真72　00708調査１トレンチ SP-４（東から）…51
写真73　00708調査１トレンチ完掘状況（北東から）……51
写真74　00708調査２トレンチ全景（北東から）…51
写真75　00708調査２トレンチⅢ層検出状況（南西から）……51
写真76　00708調査２トレンチ完掘状況（東から）……51
写真77　00708調査３トレンチ遠景（南東から）…53
写真78　00708調査３トレンチⅢ層検出状況（北から）……53
写真79　00708調査３トレンチ北Ⅲ層検出状況（南から）……53
写真80　00708調査３トレンチ北Ⅲ層遺物出土状況（南から）……53
写真81　00708調査３トレンチ北遺構検出状況（南から）……53
写真82　00708調査３トレンチ北遺構完掘状況（南から）……54
写真83　00708調査３トレンチ北土層断面（南から）……54
写真84　00708調査３トレンチ完掘状況（北から）……54
写真85　00709調査水田耕作土検出状況（東から）……57
写真86　00709調査南壁東端土層（北から）……57
写真87　00709調査西壁土層（北東から）……57
写真88　00710調査１トレンチ遠景（西から）……62
写真89　00710調査１トレンチⅠ・Ⅱ区（北から）……62
写真90　00710調査１トレンチⅠ区西端土層断面（北から）……62
写真91　00710調査１トレンチⅡ区（南から）……62
写真92　00710調査１トレンチⅡ区西壁土層断面……62
写真93　00710調査１トレンチⅡ区西壁・南壁土層断面……62
写真94　00710調査１トレンチⅢ区（西から）……63
写真95　00710調査１トレンチⅢ区北壁土層断面……63
写真96　00710調査２～４トレンチ（南から）……63
写真97　00710調査２トレンチ（西から）……63
写真98　00710調査２トレンチ北壁土層断面……65
写真99　00710調査２トレンチⅢ層残存状況……65
写真100　00710調査３トレンチ（西から）……65
写真101　00710調査３トレンチ北壁土層断面……65
写真102　00710調査３トレンチⅢ層残存状況……65

写真103　00710調査４トレンチ（西から）……65
写真104　00711調査表土剥ぎ作業と移植作業……69
写真105　00711調査余掘り壁土層断面（CE･CF-27区）……69
写真106　00711調査Ⅳ層（CF-27区）の遺物・炭化物包含状況……69
写真107　00711調査Ⅲ層上面遺構完掘状況（西から）……69
写真108　00711調査Ⅳ層上面遺構完掘状況（西から）……69
写真109　00711調査 SD-101完掘状況（北東から）……70
写真110　00711調査 SD-103完掘状況（北西から）……70
写真111　00711調査 SK-106・SP-133検出状況（南東から）……70
写真112　00711調査 SK-109遺物出土状況（北から）……70
写真113　00711調査Ⅳ・２層上面（CF-27・28区、北西から）……70
写真114　00711調査 SF-201完掘状況（東から）…70
写真115　00711調査 SF-203検出状況（北東から）……70
写真116　00711調査 SF-203周辺遺物出土状況 ……70
写真117　00712調査Ⅰ区Ⅱ・２・②水田層畦畔（東から）……80
写真118　00712調査Ⅰ区東辺遺構検出状況（南から）……80
写真119　00712調査Ⅰ区 SX-120周辺（西から）…80
写真120　00712調査Ⅰ区 SD-124、SR-101（東から）……80
写真121　00712調査Ⅱ区全景（北から）……80
写真122　00712調査Ⅲ区全景（東から）……80
写真123　00712調査Ⅳ区東西辺北Ⅳ層上面状況（西から）……81
写真124　00712調査Ⅳ区東西辺南Ⅳ層上面状況（南西から）……81
写真125　00712調査Ⅳ区南辺完掘状況（北から）……81
写真126　00712調査Ⅳ区南北辺 SR-401（北から）……81
写真127　00712調査Ⅳ区東西辺 SD-402（南西から）……82
写真128　00712調査Ⅴ区完掘状況（北西から）……82
写真129　00712調査Ⅵ区完掘状況（北西から）……82
写真130　00712調査ⅦＢ区深掘り部分土層断面（北から）……82
写真131　00712調査Ⅶ・Ⅷ区完掘状況（東から）……82
写真132　00712調査Ⅸ区完掘状況（南から）……82
写真133　00712調査Ⅹ区西半部完掘状況（東から）……82
写真134　00713調査地点（北西から）……85
写真135　00713調査土層断面（北西から）……85
写真136　00714調査地点遠景（南西から）……86
写真137　00714調査地点全景（北東から）……86
写真138　00714調査地点西辺の掘削状況（南から）……89
写真139　00714調査１トレンチ（南西から）……89
写真140　00714調査１トレンチ土層断面（西から）……89
写真141　00714調査２トレンチ（南から）……89
写真142　00715調査１・２・５・６トレンチ（北西から）……91
写真143　00715調査１・２・５・６トレンチ（北から）……91
写真144　00715調査１トレンチ全景（北東から）……91
写真145　00715調査２トレンチ全景（北から）…91
写真146　00715調査２トレンチ南端西壁土層断面……91
写真147　00715調査２トレンチ中央～北端西壁土層断面……91
写真148　00715調査３トレンチ全景（西から）…92
写真149　00715調査３トレンチ東端北壁土層断面……92
写真150　00715調査４トレンチ遠景（南西から）……92
写真151　00715調査４トレンチ全景（南から）…92
写真152　00715調査４トレンチ北端西壁土層断面……92
写真153　00715調査５トレンチ全景（北から）…92
写真154　00715調査５トレンチ西壁土層断面……93
写真155　00715調査６トレンチ全景（南西から）……93
写真156　00715調査６トレンチ南壁土層断面……93

写真157　00715調査７トレンチ全景（南西から）
……93

表目次

表１　2007年度の埋蔵文化財調査室の体制……2
表２　2007年度埋蔵文化財調査依頼・照会一覧
……4・5
表３　2007年度発掘調査一覧……5
表４　2007年度調査室・調査室資料利用一覧
……10・11

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

2007（平成19）年度の埋蔵文化財調査委員会は、2007年7月25日（第1回）と2008年3月18日（第2回）に開催された。2007年度の埋蔵文化財調査委員会の体制は以下の通りである。

委員長　林　和男（副学長）
委　員　亀井　崇（副学長、総務・施設・情報担当）
委　員　小澤　浩（法文学部長）
委　員　下條信行（法文学部・教授）
委　員　松原弘宣（法文学部・教授）
委　員　曲田清維（教育学部長）
委　員　川岡　勉（教育学部・教授）
委　員　野倉嗣紀（理学部長）
委　員　大西丘倫（医学部長）
委　員　高松雄三（工学部長）
委　員　泉　英二（農学部長）
委　員　山之内恵一（本部・経営企画課長）
委　員　山村　滋（本部・財務部長）
委　員　山地久司（本部・施設基盤部長）

第1回埋蔵文化財調査委員会では、施設企画課長から新委員が紹介され、委員長の挨拶の後、2006年度事業について下條埋蔵文化財調査室長から報告があった。報告内容は、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の印刷・刊行、発送、広報・資料の利活用状況、愛媛大学保管・収蔵資料に関する各事業である。2006年度会計報告では、『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査－』、『文京遺跡Ⅵ－文京遺跡25次調査－』、『年報－2005年度－』の刊行できなかった理由と、『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査－』は2007年度当初に刊行され、『年報－2005年度－』も入稿直前であることが説明された。以上の報告の後に審議に入り、2006年度実施事業・会計報告は了承された。つづいて、下條埋蔵文化財調査室長から2007年度実施事業計画について、城北団地ならびに持田団地の6つの建物に関わる耐震改修工事計画に伴い、年度当初に集中して試掘調査を実施した結果、全面調査を4件実施することとなり、当初予定していた報告書刊行に向けた整理作業に支障をきたし、事業の一部を2008年度に繰り越す必要があるとの説明が行われ、審議の後、了承された。その他の議題として、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議の結果、2007年度から周知の埋蔵文化財包蔵地ならびにみなしの埋蔵文化財包蔵地においては、規模の大小にかかわらず、60日前までに土木工事届（文化財保護法第93条）を提出することとなったため、土木工事を伴う工事計画がある場合には、できる限り早く施設基盤部へ連絡するよう報告があった。

第2回埋蔵文化財調査委員会では、2008年度事業計画、2008年度予算、埋蔵文化財調査室長の推薦について、その他の議題が報告・審議された。下條埋蔵文化財調査室長から2008年度事業計画・予算について報告があった。審議では、大学構内遺跡の位置づけについての質疑があり、文京遺跡や樽味遺跡を始めとするキャンパス内地下に眠る遺跡は、全国的にも著名な遺跡であり、活用方法によっては愛媛大学の特色となるとの説明があった。以上、2008年度事業計画・予算についての審議の後、原案通り了承された。つづいて2007年度で退職される下條埋蔵文化財調査室長の後任人事について、法文学部田崎博之教授を学長に推薦することで了承された。また、委員長から下條埋蔵文化財調査室長へ埋蔵文化財調査と保護のために多大なる尽力をいただいたことに対するお礼の言葉があり、下條埋蔵文化財調査室長から退任にあたっての挨拶があった。（三吉）

2　2007年度の埋蔵文化財調査室事業

（1）発掘調査と整理作業

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う諸工事に際して、規模の大小にかかわらず、工事内容による埋蔵文化財に対する影響を周辺の既往

調査などから判断し、それに応じた対応を行ってきている。2007年度の埋蔵文化財調査室の体制は、表1の通りである。

2004年度国立大学法人愛媛大学発足に伴い、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地ならびにみなしの埋蔵文化財包蔵地においては、規模の大小にかかわらず、60日前までに土木工事届（文化財保護法第93条）を提出することとした。

2007年度には、38件の調査依頼あるいは照会を受け（表2）、15件について発掘調査を行った（表3）。2007年度には、城北団地における共通教育講義棟、共通教育管理棟、法文学部講義棟、工学部2号館、附属図書館、そして持田団地の教育学部附属小学校本館の6つの建物の耐震改修工事が計画され、年度当初に集中して試掘調査を実施することとした。その調査結果を踏まえながら、できるだけ工事によって埋蔵文化財に影響がないように施設基盤部と協議を重ね、工事計画の見直しを行ったものの、調査件数が大幅に増え、年度当初に計画していた調査室業務と予算を圧迫することとなり、2007年度実施予定の発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業の一部を来年度以降に持ち越すこととなった。

発掘調査は、団地別では、城北団地で10件、樽味団地で2件、持田団地で2件、御幸団地で1件である（図1～5）。調査種別では、試掘調査8件、立会調査2件、全面調査4件、確認調査1件である。全面調査は、7月以降、持田団地構内遺跡2次調査（調査番号：00709）を皮切りに、文京遺跡32次調査（調査番号：00710）、文京遺跡33次調査（調査番号：00711）、文京遺跡34次調査（調査番号：00712）と2008年2月まで実施した。これらの調査期間中に、2件の試掘調査・立会調査、14件の工事立会を行い、確認調査は、御幸団地で00715調査として実施した。

報告書刊行に向けた整理作業として、平成18年度調査の出土遺物の洗浄・注記・復元作業を行った。また、城北団地工学部校舎新営Ⅰ期工事に伴う文京遺跡12次調査で水洗した土壌から微細遺物の選別作業をほぼ終了させた。出土遺物の実測・製図作業は、情報教育棟新営工事に伴う文京遺跡25次調査出土遺物と、農学部寄付建物新営工事に伴う樽味遺跡6次調査、農学部2号館改修工事に伴う樽味遺跡7次調査出土遺物、樽味団地総合研究棟改修工事に伴う樽味遺跡8次調査の出土遺物について実施した。

（2）発掘調査報告書・埋蔵文化財調査室年報の刊行

2007年度には、総合情報メディアセンターの南側建物部分の新営工事に伴う文京遺跡18次調査の正式報告書である『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査報告－』と、2005年度に実施した小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2005年度－』、さらに2006年度に実施した全面調査の概要報告ならびに小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2006年度－』の計3冊を刊行した。

また、昨年度刊行した『埋蔵文化財調査室年報－2004年度－』、今年度刊行した『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査報告－』、『埋蔵文化財調査室年報－2005年度－』を、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館へ発送した。

（3）広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡調査出土の遺物や調査に関するデータ、そして愛媛大学旧歴史学研究会保管資料などを保管している。これらの資料に対しては、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これらの要望に対して、調査室では広報パンフレットの配布やWebを利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

1）埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

前年度に引き続き、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼が多く、2007年度で計62件の依頼があった（表4）。内訳は、学外40件、学内22件である。学外からの依頼の内訳は、県内20件、県外・国外20件である。大学教員・学生や埋蔵文化財調査機関の調査

表1　2007年度の埋蔵文化財調査室の体制

室長		下條　信行	法文学部教授
調査員		田崎　博之	法文学部教授
		吉田　広	法文学部准教授
		三吉　秀充	法文学部助教
専門員		松原　弘宣	法文学部教授
		村上　恭通	法文学部教授
		川岡　勉	教育学部教授
教務補佐員		宮崎　直栄	施設基盤部施設企画課
事務補佐員		濵田　美加	
技術補佐員		須之内慶子	
技能補佐員		井手野文江	
		門田　都	

図1　愛媛大学主要団地位置図（縮尺1/200,000、平成17年4月1日国土地理院発行1：200,000松山に加筆）

1：中島団地　2：北条団地　3：津田山団地　4：東長戸団地・山越団地　5：御幸団地6：城北団地　7：持田団地
8：樽味団地・北吉井団地　9：東野団地・畑寺団地　10：鷹子団地　11：重信団地・横河原団地　12：米野団地
13：大井野団地　14：伊予団地

研究員による研究目的での資料調査の依頼が多い。また、研究のみならず、特別展示への貸し出し依頼が、松山市考古館と徳島県徳島市立考古資料館から2件あった。学内からは、教員による教材としての利用が8件、学生・大学院生からの研究資料としての利用は11件である。こうした依頼に対しては、調整を図りながら、個別に対応している。

2）広報パンフレットの配布

4月に新入生ならびに新規採用職員に広報パンフレット『発掘 愛媛大学』を配布した。

3）Webを利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004年度開設した埋蔵文化財調査室ホームページを通じて、調査室実施の発掘調査・研究活動の情報発信を行っている。2007年度には、

表2　2007年度埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応
月／日	発	工事名	
3／16	施設基盤部長	（城北団地）共通教育講義棟耐震補強工事	試掘調査として00701調査を実施し、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
4／3	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）第１体育館南消化管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
4／20	学生支援部長	（城北団地）弓道場的場防矢ネット取設工事	立会調査として00708調査を実施。
5／10	施設基盤部長	（持田団地）教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事	試掘調査として00702調査を実施し、埋蔵文化財に影響があると判断し、全面調査として00709を実施。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）法文学部講義棟耐震改修その他工事	試掘調査として00703調査を実施し、埋蔵文化財に影響があると判断し、全面調査として00711を実施。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）工学部２号館耐震改修その他工事	試掘調査として00704調査を実施し、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）教育学部２号館耐震改修その他工事	試掘調査として00705調査を実施し、埋蔵文化財に影響がないと判断したが、３ヶ所のうち、２ヶ所は慎重工事を依頼、１ヶ所は工事立会を実施。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）総合教育研究棟等耐震改修その他工事（附属図書館耐震改修その他工事）	全面調査として00710調査（BNK-32）を実施。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）法文学部講義棟耐震補強工事	全面調査として00711調査（BNK-33）を実施。
5／10	施設基盤部長	（城北団地）総合教育研究棟等耐震改修その他工事（共通教育管理棟耐震改修その他工事）	全面調査として00712調査（BNK-34）を実施。
5／23	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟B108電気設備修繕工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
6／4	施設基盤部長	（城北団地）北門周辺給水管周り修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
6／29	医学部長	（重信団地）医学部附属病院高エネ診療棟新営工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7／2	教育学部附属幼稚園長	（持田団地）附属幼稚園床暖房工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7／10	施設基盤部長	（城北団地）総合教育研究棟耐震改修その他工事（プレハブ倉庫設置工事）	盛土再掘削のため、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7／10	施設基盤部長	（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営電気設備工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
7／25	施設基盤部長	（樽味団地）農学部給水配水管漏水修理工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7／26	農学部長	（樽味団地）農学部給水配水管漏水修理工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7／31	施設基盤部長	（持田団地）教育学部附属小学校本館耐震改修その他工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
8／21	教育学部附属幼稚園長	（持田団地）附属幼稚園園舎等便所その他改修機械設備工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
8／31	理学部長	（城北団地）理学部構内プレハブ倉庫取設工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
9／18	農学部長	（樽味団地）育成ハウス設置工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、立会調査として00714調査を実施。
9／18	農学部長	（樽味団地）農学部制御化農業実験実習棟外上水道引込工事	試掘調査として00713調査を実施し、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
9／21	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟屋外散水管修繕工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。

11／21	施設基盤部長	（城北団地）統合車庫北西道路雨水管修繕工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響があると判断し、工事立会を実施。
12／20	施設基盤部長	（城北団地）埋設ガス配管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
12／25	施設基盤部長	（城北団地）教育学生支援部事務所西側埋設ガス配管修繕工事	周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
1／16	施設基盤部長	（城北団地）総合教育研究棟耐震改修機械設備工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
1／21	施設基盤部長	（東長戸団地）職員宿舎４号棟分電盤修繕工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
1／23	教育学部附属小学校長	（持田団地）附属小学校小学校遊具（シーソー）更新工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
1／23	農学部長	（樽味団地）農学部制御化農業実験施設電気室設備修繕工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
1／30	施設基盤部長	（山越団地）野球場ポール修繕工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、慎重工事を依頼。
2／19	施設基盤部長	（城北団地）沿岸・GRC関連施設新営工事	周辺の既往の調査成果から、９ヶ所のうち２ヶ所は埋蔵文化財に影響がないと判断。残りの７ヶ所のうち３ヶ所は全面調査（00803）、他は2008年度に立会調査を実施した。
3／3	施設基盤部長	（城北団地）法文学部本館等空調設備電源工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断し、慎重工事を依頼。
3／7	理工学研究科長	（城北団地）工学部正面（本館東側）モクレン植樹工事	周辺の既往の調査成果から、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
3／13	施設基盤部長	（城北団地）理学部本館周辺自転車置場照明設備電源修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
3／25	施設基盤部長	（城北団地）工学部２号館西埋設ガス配管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。
3／25	安全衛生管理室長	（東長戸団地）職員宿舎３棟周辺排水枡修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断。ただし、工事立会を実施。

表３　2007年度発掘調査一覧

調査番号	調査種別	団地	遺跡	工事名	調査期間	調査面積
00701	試掘	城北	文京	共通教育講義棟耐震補強工事計画	2007.4.27	9.2㎡
00702	試掘	持田	持田団地構内	教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事計画	2007.5.15	9.4㎡
00703	試掘	城北	文京	法文学部講義棟耐震改修その他工事計画	2007.5.21	3㎡
00704	試掘	城北	文京	工学部２号館耐震改修その他工事計画	2007.5.21	1.5㎡
00705	試掘	城北	文京	教育学部２号館耐震改修その他工事計画	2007.5.22～5.23	11.8㎡
00706	試掘	城北	文京	附属図書館耐震改修その他工事計画	2007.5.23～5.28	18㎡
00707	試掘	城北	文京	共通教育管理棟耐震改修その他工事計画	2007.5.21～5.30	27.8㎡
00708	立会	城北	文京	弓道場的場防矢ネット取設工事	2007.6.12～6.13	13.2㎡
00709	全面	持田	持田団地構内（MCD-2）	教育学部附属小学校本館耐震改修その他工事	2007.7.24～8.10	137㎡
00710	全面	城北	文京（BNK-32）	附属図書館耐震改修その他工事	2007.8.1～8.21、2007.9.7	23㎡
00711	全面	城北	文京（BNK-33）	法文学部講義棟耐震改修その他工事	2007.8.20～10.24	161.5㎡
00712	全面	城北	文京（BNK-34）	共通教育管理棟耐震改修その他工事	2007.8.20～2008.2.8	533.3㎡
00713	試掘	樽味	樽味	農学部制御化農業実験実習棟外上水道引込工事	2007.11.2	0.6㎡
00714	立会	樽味	樽味	育成ハウス設置工事	2007.11.2	2.1㎡
00715	確認	御幸	－	2007年度構内遺跡確認調査（御幸団地）	2007.12.17	12.5㎡

学内の発掘調査速報や、平成19年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ弥生時代の食』関連情報を随時更新し、リアルタイムの情報発信に努めた。

4）公開講座の開催ほか

平成19年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ弥生時代の食』を以下の日程で開催した。

11月17日（土）下條信行「稲の到来－社会を変えた稲（イネ）」
11月24日（土）吉田広「海の幸・山の幸－鎌と鍬」
12月１日（土）三吉秀充「器からみた食－弥生土器」
12月８日（土）田崎博之「弥生時代の穀物－出土種子」
12月15日（土）田崎博之・吉田広・三吉秀充「討論－弥生人の食」

本講座では、文京遺跡の発掘調査成果や実際に出土した土器・石器・炭化種子といった実物資料を毎回使用し、受講生自身が「見る」「触れる」といった実体験ができるよう内容も工夫した。また、受講生には毎回質問用紙を配布し、受講生の理解度を確認しながら講座の運営を行った。年度末には平成19年度愛媛大学公開講座記録集『文京遺跡から学ぶ弥生時代の食』を刊行し、受講生ならびに関係機関に配布した。受講生からは、今後も実物にふれることができる公開講座を継続して開催して欲しいとの声があった。また、文京遺跡33次調査時を利用して行われた臨地講義の受講生からは、今後も学内の遺跡見学や出土した遺物を活用した授業を行って欲しいとの声が寄せられている。

（三吉）

写真１　公開講座で土器を観察する受講生

写真２　臨地授業で土層堆積状況を講義

3　愛媛大学構内遺跡の確認状況

愛媛大学の敷地は松山市及び愛媛県内の各所に分散し、敷地の総面積は464ヘクタールにおよぶ。これまで把握できている埋蔵文化財の分布は以下の通りである。

1）城北団地：松山市道後樋又10番、文京町２・３番

城北団地には、法文学部・教育学部・理学部・工学部・大学事務局が所在する。1951年から遺物が採集され、文京遺跡として周知されている。2008年度現在、1～3・5～37次に及ぶ全面調査と確認・試掘・立会調査を実施してきた。理学部が所在する文京町２番構内では縄文前期の遺物が出土している。縄文後期になると文京町２・３番構内全域で住居跡や土壙や野外炉が出土し、縄文晩期末～弥生前期初頭前後の土壙や土器溜まり遺構が確認されている。さらに、文京町３番構内においては、西南部を中心として全国的にも有数の弥生中期後葉～後期中葉の大規模集落が営まれ、一部には古墳後期の集落も重なる。その北側の谷状の窪地では、古代～中世（11～13世紀）の水田遺構が確認されている。加えて、戦前の練兵場時代の遺構も見出すことができる。一方、事務局などが所在する道後樋又10番構内は、これまで周知の埋蔵文化財包蔵地外とされてきたが、2000年度以降に実施してきた試掘調査や工事立会で、弥生後期の甕や、中世の土師器・備前焼摺鉢・白磁碗などが出土している。道後樋又10番構内も含めて、縄文前期から中世に及ぶ複合遺跡としての文京遺跡の広がりを確認できる。

図2　城北団地（文京遺跡）における2007年度調査地点（縮尺 1/3,500）

図3　持田団地（持田団地構内遺跡）における2007年度調査地点（縮尺 1/2,000）

図4　樽味団地（樽味遺跡）における2007年度調査地点（縮尺 1/2,000）

2）持田団地：松山市持田町1丁目５番22号

持田団地には、教育学部附属中・小・幼・特別支援学校が所在し、持田団地構内遺跡として周知されている。団地北東側に隣接した松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査Ⅰ-１～４区で15世紀後半を前後する水田及び畠が調査され、団地構内でも2006年度の附属中学校校舎新営工事に伴う１次調査では近世、2007年度の附属小学校本館等耐震改修工事に伴う２次調査では中世前半期に遡る可能性の高い水田層が発見された。また、水田層の下層に堆積した砂礫層からは弥生土器、古墳後期～古代前半の土師器や須恵器が出土している。

3）樽味団地：松山市樽味３丁目５番７号

樽味団地には、農学部・附属高等学校・附属研究施設等が所在する。団地西部は、樽味遺物包含地として周知の埋蔵文化財包蔵地とされ、1987年の１次調査以降、樽味遺跡として８次にわたる全面調査と小規模な試掘・立会調査が実施され、弥生前期から中世におよぶ集落遺跡であることが判明している。具体的には、団地西半部において中世（14～16世紀）の方形区画を有する集落が面的に広がる。北西部では、弥生前期の集落と古墳後期の集落も確認され、後者は団地周辺の樽味立添遺跡や樽味高木遺跡と一連の遺跡の可能性が高い。一方、団地南部では、古代末から中世（10～14世紀）に埋没する自然河道が発見されている。附属高等学校の所在する団地東部は、必ずしも遺跡の広がりが明確でない。ただし、４次調査で古代（８世紀）に埋没する自然河道や、古代末～中世（10～12世紀）の遺物包含層が確認され、団地西半部とは若干異なる時代の遺跡が展開している。そのため、現在、樽味団地全域をみなしの埋蔵文化財包蔵地として取り扱い、埋蔵文化財の保護に努めている。

4）御幸団地：松山市御幸町２丁目３番15号

学生寄宿舎が所在する。2000年度に13～14世紀と考えられる水田層を確認し、2007年度に実施した確認調査では、団地南東部に微高地、その北西側に自然流路が流れる景観を復元でき、その埋没した窪地に中世以降の水田と畠が営まれていることが判明した。また、微高地上には縄文時代～古墳時代の遺構・遺物が包含されていると考えられる土層群が分布する。

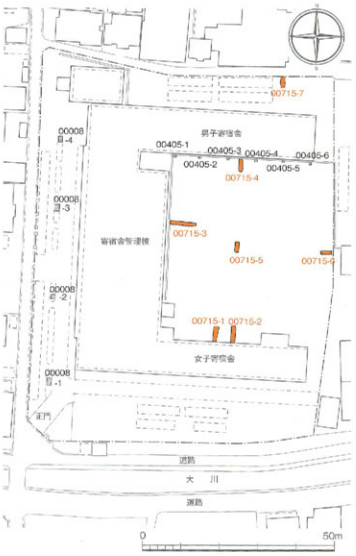


図５　御幸団地における2007年度調査地点（縮尺１／1,000）

5）北吉井団地：松山市桑原２丁目８番８号

北吉井団地には教職員宿舎が所在する。1994年に東長戸他環境整備（駐車場整備・配管設置）工事による立会調査、1997年に北吉井宿舎屋外排水管改修工事による本格調査と北吉井宿舎屋外ガス管改修工事による立会調査が行われている。その結果、古墳中期～後期（５～７世紀初）、古代（10世紀）の集落遺跡が団地全面に展開することが確認され、桑原西稲葉遺跡３～５次調査として報告している。

6）鷹子団地：松山市鷹子町40番

鷹子団地には国際交流会館が所在する。1987年に国際交流会館建設に先立って、鷹子遺跡１次調査が行わ

表4　2007年度調査室・調査室資料利用一覧

月／日	利　用　者	利　用　資　料	目的	利用内容
4／1	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次出土資料	教育	借用
4／14	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
4／19	愛媛大学法文学部・学生	樽味遺跡出土資料	卒論	借用
4／23	愛媛大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室所蔵資料	教育	借用
4／27	愛媛大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室所蔵資料	教育	借用
5／10	愛媛大学法文学部・学生	樽味遺跡出土資料	卒論	借用
5／11	徳島県立鳥居記念博物館・学芸員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	資料送付
5／16	愛媛大学法文学研究科・学生	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望
5／17	愛媛大学法文学研究科・学生	文京遺跡・樽味遺跡出土鉄器	研究	熟覧
5／18	仙台市縄文の森広場・学芸員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
5／18	出雲市教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
5／19	松野町教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
5／19	宇和島市教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
5／19	西条市教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
5／24	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次調査出土資料	教育	借用
6／4	愛媛大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室所蔵資料	教育	借用
6／6	愛媛県埋蔵文化財センター・職員	持田団地構内遺跡発掘調査資料	研究	資料希望
6／22	大阪府文化財センター・職員	文京遺跡出土弥生土器（焼成失敗品）	研究	熟覧
6／30	岡山市教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
7／5	山口県立博物館・学芸員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
7／6	愛媛大学法文学部・学生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	卒論	借用
7／10	愛媛大学法文学部・学生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	卒論	熟覧・文献複写
7／22	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	熟覧・文献複写
7／23	愛媛県教育委員会・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
7／24	愛媛大学法文学部・教員	学内公共基準点の利用	教育	データ利用
8／24	愛媛県埋蔵文化財センター・職員	大学構内遺跡発掘調査（文京遺跡31次・樽味遺跡８次・持田団地構内遺跡１次）データ	研究	データ利用
9／5	香川県教育委員会・職員	文京遺跡33・34次調査現地見学	研究	見学
9／9	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	熟覧・文献複写
9／14	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10次調査出土資料	卒論	熟覧
9／14	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10次調査出土資料	卒論	借用
9／22	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡周辺遺跡地図データ	卒論	図書希望
9／25	徳島県立鳥居記念博物館・学芸員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	熟覧・文献複写
10／1	北九州市技術文化振興財団埋蔵文化財調査室・職員	文京遺跡関連文献	研究	文献複写・送付希望
10／1	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10次調査出土資料	卒論	借用
10／3	徳島市立考古資料館	文京遺跡10次調査・24次調査室出土鏡	展示	借用
10／18	愛媛大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室収蔵資料	教育	借用

12／1	一般（松山市内在住）4名	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
12／6	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡12次調査出土炭化米	教育	借用
12／11	鹿児島県立埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
12／12	一般（鹿児島県内在住）	文京遺跡関連文献	研究	図書希望
12／19	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10次調査出土土器	卒論	熟覧
12／21	松山市考古館	文京遺跡発掘調査写真データ	展示	データ利用
12／28	愛媛大学法文学部・学生	実体顕微鏡	卒論	借用
12／30	西条市教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	熟覧・文献複写
1／6	山口県立博物館・学芸員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	熟覧・文献複写
1／9	大韓民国・慶北大学校考古人類学科・学生2名	埋蔵文化財調査室所蔵図書、文京遺跡出土磨製石器	研究	借用、熟覧
1／16	松山市考古館・学芸員	文京遺跡10～14・16・20・23次調査出土資料	展示	熟覧
1／17	松山市考古館	文京遺跡10～14・16・20・23次調査出土資料	展示	借用
1／31	愛媛大学法文学研究科・学生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	借用
3／6	愛媛大学理学部・教員	文京遺跡33次調査土壌サンプル	研究	借用
3／15	今治市教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望
3／15	出雲市教育委員会・職員	文京遺跡出土弥生土器	研究	熟覧
3／15	大韓民国・高麗大学校・教員	施設見学		見学
3／15	愛媛県立川之石高校・職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望
3／15	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望
3／16	山口県立博物館・学芸員	文京遺跡出土縄文時代後期土器	研究	熟覧
3／16	今治市教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望
3／21	山口県立博物館・学芸員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	図書希望

れ、弥生時代中期後葉、古代（7～8世紀）、中世（13～14世紀）の遺構・遺物が確認された。この調査によって、団地内の大半を調査したことになるが、建物周辺には遺跡が残存すると考えられる。

7）山越団地：松山市山越4丁目11番10号

山越団地には大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグラウンドなどの施設が所在する。1992年度と2002年度の確認調査によって、団地が丘陵部裾からのびる段丘の落ち際に位置することが確認されている。団地北東隅の旧河道の落ち際からは、ウメやカシ類の炭化種実や加工木などが縄文晩期前半～中頃の遺物とともに出土している。また、団地西半部でも、古墳後期の自然流路が確認されている。

8）その他の団地

上記の団地以外は、発掘調査は確認調査や小規模な試掘・立会調査にとどまるか、まったく調査が行われていない状況にある。

①畑寺団地：松山市畑寺町丙47番2

農学部附属農業高等学校農場が所在する。2006年度に果物収納庫新営工事に伴う試掘調査と団地全面での分布調査を行ったが、現在のところ、埋蔵文化財の有無は未確認である。

②米野団地：松山市米野町乙184番地1号

農学部附属演習林が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

③梅津寺団地：松山市梅津寺1861番地

大学課外活動施設が所在するが、調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

④北持田団地：松山市北持田町128番地1号

職員宿舎が所在するが、調査歴がなく、埋蔵文化財

の有無は未確認である。

⑤東長戸団地：松山市東長戸４丁目３番１号

教職員宿舎が所在する。1994年度の立会調査によって、団地東半部を中心として遺跡が営まれている可能性を指摘できる。

⑥喜与団地：松山市喜与町1丁目８番８号

教職員宿舎が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

⑦中島団地：松山市小浜甲1872番２号

理学部附属臨海実験所が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

⑧重信団地：東温市志津川

医学部及び附属病院が所在する。これまで数回の試掘調査あるいは確認調査を行ってきたが、遺跡の存在は確認されていない。ただし、団地東北部分には遺跡が残る可能性が残されている。

⑨溝辺団地：松山市溝辺町乙298番地

農学部附属高等学校の校舎が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

⑩横河原団地：東温市横河原

教職員宿舎が所在する。現在の重信川の氾濫原上にあり、埋蔵文化財は分布していない。

⑪北条団地：松山市八反地字伊利甲498番地

農学部附属農場が所在する。調査歴はないが、団地の一部は、荻尾古墳群あるいは八竹山遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれている。

⑫津田山団地：松山市北斎院町津田山

教育学部附属養護学校施設が所在する。1991・1994年度に試掘調査を実施したが、埋蔵文化財の分布は確認されていない。

⑬伊予団地：伊予市森字下新田729番地

大学課外活動施設が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

⑭大井野団地：松山市大井野町乙145番地２号

農学部附属演習林が所在する。調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

⑮東野団地：松山市東野４丁目222番地

農学部附属演習林が所在する。調査歴はないが、団地及び周辺は、東野古墳群として埋蔵文化財包蔵地とされている。（田崎）

Ⅱ　2007年度実施の発掘調査

00701　（城北団地）共通教育講義棟耐震補強工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　9.2㎡
調査期間　2007年４月27日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年3月16日付）

1　調査にいたる経緯

共通教育講義棟の耐震補強工事計画が施設基盤部から埋蔵文化財調査室に提示された。南北外壁の８ヶ所への地中梁増し打ちと耐震補強ブレース設置、東側外壁への補強材設置の計画である。前者では外壁から1.0mの範囲を深度160cm、後者では外壁から0.7mの範囲を深度40cmまで掘削することになる。また、南側１ヶ所で既設汚水枡の設置替えが計画されている。以上の掘削範囲は、共通教育講義棟建設時の余掘り内に収ま

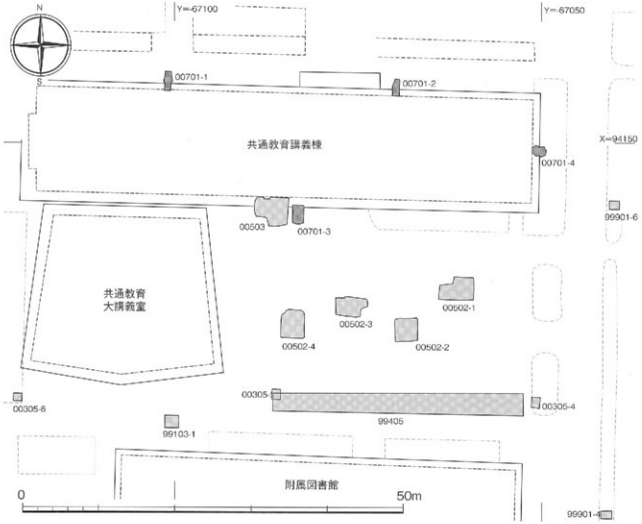


図６　00701調査地点位置図（縮尺 1／500）

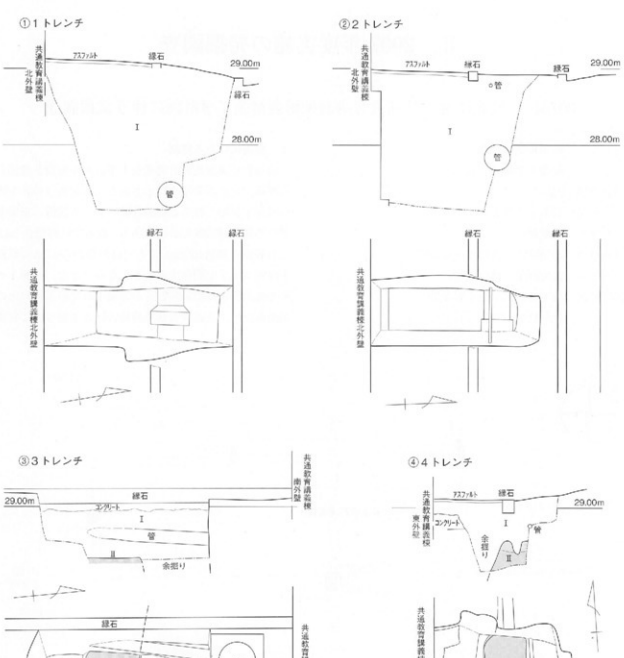


図7　00701調査1～4トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

る可能性が高い。しかし、余掘り範囲は、建物南側の1ヶ所で外壁から2.0mの位置を確認しているに過ぎない（調査番号：00503）。したがって、正確な余掘り範囲を把握するために試掘調査を実施した。

2　調査の記録

調査地点は、共通教育講義棟北側で2ヶ所、南側で1ヶ所、東側で1ヶ所の4ヶ所（図6）。調査順に1から4トレンチとした。

写真3　00701調査1トレンチ近景（北東から）

写真4　00701調査1トレンチ完掘状況（北東から）

写真5　00701調査2トレンチ近景（北東から）

写真6　00701調査2トレンチ完掘状況（北東から）

写真7　00701調査3トレンチ近景（南西から）

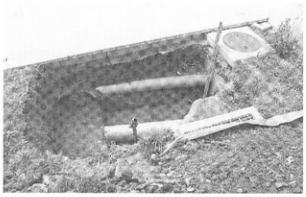


写真8　00701調査3トレンチ完掘状況（東から）

写真9　00701調査4トレンチ近景（南東から）

写真10　00701調査4トレンチ完掘状況（南東から）

（1）1トレンチ（図7-①、写真3・4）

共通教育講義棟北側外壁の、西から4スパン目の中央部に設定したトレンチで、南を建物外壁とし、東西幅約0.8m、南北約2.5mを測る。外壁から北に1.5mで東西方向に走る雨水管が現地表（道路側縁石上端）下約135cmであらわれ、以下の調査は、管以南に限った。現地表下約170cm、標高27.15mまで調査したが、管下も含めて、いずれも埋め戻し土のⅠ層であった。1トレンチ地点では、建物建築時の余掘りが外壁から1.5mの管路部分までは確実におよんでいることになる。

（2）2トレンチ（図7-②、写真5・6）

共通教育講義棟北側外壁の、東から4スパン目の中央部に設定したトレンチで、南を建物外壁とし、東西幅約0.8m、南北約2.2mを測る。外壁から北に1.55mで東西方向に走る敷水管が地表直下で現れ、その下、現地表（道路側縁石上端）下約90cmでは、1トレンチでも見られた雨水管が現れた。これらの管路を残して以南を、現地表下約170cm、標高27.15mまで調査したが、雨水管下も含めて、1トレンチ同様、いずれも埋め戻し土のⅠ層であった。2トレンチ地点でも、建物建築時の余掘りは、外壁から1.5mの管路部分までは確実におよんでいたものの、それ以北への広がりは特定するに到らなかった。

（3）3トレンチ（図7-③、写真7・8）

耐震補強プレース設置に伴い既設雨水桝の設置替えが生じ、その設置範囲を限定するために、講義棟南側出入口西側の植栽内に設けたトレンチである。西辺を植栽縁石、北を設置替対象の汚水桝、東を既設雨水桝とした、東西約1.45m、南北2.5mの範囲である。管路が狭い範囲に錯綜してあらわれたが、その間を縫って、撹乱を被っていない城北団地基本層序のⅡ層を検出した。西壁際で共通教育講義棟外壁から南に2.0mの地点、縁石上端から約90cmの深さ、標高28.35mである。西側にほぼ隣接する00503調査区においても、やはり外壁から2.0mの位置でⅡ層を検出している。したがって、周辺では外壁から2.0mまでは、共通教育講義棟建築時の余掘り範囲とみることができる。

（4）4トレンチ（図7-④、写真9・10）

共通教育講義棟東側外壁中央部に設定したトレンチで、南北約1.0m、東西約1.8mを測る。建物外壁から0.9m東、現地表下約55cm、標高28.6mで城北団地基本層序のⅡ層を検出した。砂礫の混じる灰黄褐色土で、上部15cm前後は砂礫の混じりが多く、しまりもなく、再堆積層とみられる。これ以西が建築時の余掘り範囲となるが、今回の調査範囲において余掘り掘削は法面をかなりとっており、標高約28.2mのトレンチ底面では、外壁から0.75mにまで減じている。

3　調査の成果

共通教育講義棟建築時の余掘りについて、以下のようにまとめることができる。

①講義棟北側では、雨水桝が敷設されている外壁から1.5mまでの範囲が建築時の余掘り範囲に含まれる。

②講義棟南側では、外壁から2.0mまでの範囲が建築時の余掘り範囲である。

③講義棟東側では、外壁から0.75m、現地表下約90cmの範囲は建築時の余掘り範囲である。

以上の調査成果から、耐震補強プレース設置工事に伴う掘削が建物南北で外壁から1.0m、建物東側の耐震補強財設置工事に伴う掘削は外壁から0.7m、建物南側の汚水桝設置工事に伴う掘削工事は外壁から2.0mであり、いずれの掘削工事も周辺の埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。（吉田）

00702　（持田団地）教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市持田町1丁目5番22号
　　愛媛大学持田団地
調査面積　9.4㎡
調査期間　2007年5月15日
調査種別　試掘調査
調査担当　吉田広・三吉秀充

依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月1日付）

1　調査にいたる経緯

附属小学校本館及び中庭南側校舎に耐震補強工事が計画された。これらの建物が位置する持田団地北半部

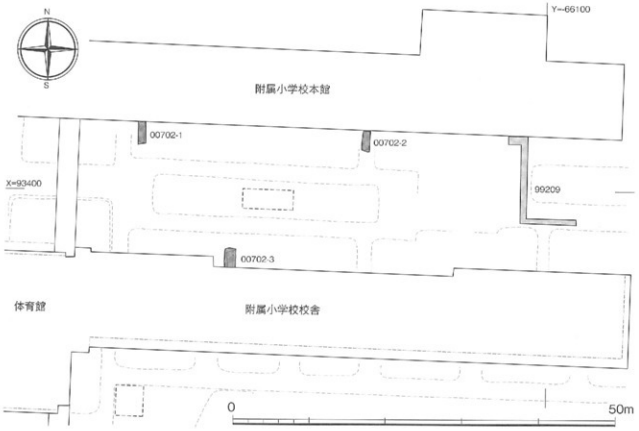


図８　00702調査地点位置図（縮尺 1/500）

では、既往の調査成果から中世に遡ると考えられる水田が営まれている可能性が高い。そのため、計画策定にあたって、施設基盤部と協議を重ね、工事範囲を極力建物余掘り範囲に収めることに努めた。

施設基盤部から提示された耐震補強工事に伴う掘削計画は以下の通りである。

①附属小学校本館では、耐震ＰＣフレーム設置に伴う基礎工事を行うため、建物外壁から1.4～3.9mの間を現地表下170cmまで掘削する。

②さらにその南0.5mを管路新設のために、現地表下30cmまで掘削する。

③中庭南側校舎では、中庭側の外壁４ヶ所各１スパン分に耐震補強ブレースを設置するため、外壁から1.0mまでを100cm掘削する。

そのため、埋蔵文化財調査室では、掘削計画範囲内での埋蔵文化財の有無をより正確に把握するため、試掘調査を実施することとした。

2　調査の記録

工事計画に沿って、本館廊下側に２ヶ所、中庭を挟んだ校舎北側に１ヶ所の計３ヶ所にトレンチを設け、埋蔵文化財の有無を確認することとした。調査順に、本館西側の調査地点を１トレンチ、同東側を２トレンチ、中庭を挟んだ校舎北側の調査地点を３トレンチとした（図８）。

（1）基本層序

これまで附属小学校・中学校・特別支援学校がある持田団地では、全面調査１回、試掘・確認調査を10数回実施し、団地内における埋蔵文化財の状況も把握できつつある。その成果として、以下の基本層序を設定している。

Ⅰ層：表土・造成土層

Ⅱ層：水田・畠に利用された耕作土層と母材土壌の自然堆積層（洪水層）から構成される土層群

Ⅲ層：石手川の埋没中州である砂礫層

以下、この基本層序に沿って報告を行うが、Ⅱ層部分の細分については、上層水田をⅡ-１層、下層をⅡ-２層とし、それ以下の細分は、それぞれ上層から①、

②･･･と順番に番号を付した。

（2）1トレンチ（図9-①、写真11・12）

中庭北西部、本館廊下犬走りの南端から南に約2.9m、幅約1.0mで設定したトレンチである。真砂土などからなる表土層が、現地表下約50cmまで続く。その直下で水田層（Ⅱ-2層）を検出した。Ⅱ-2層は、耕作土を覆う洪水層であるⅡ-2-①層、耕作土であるⅡ-2-②層、床土層であるⅡ-2-③層からなる。Ⅱ-2-①層は灰黄色砂礫土。径2～3㎜の砂礫が多く混じり、鉄・マンガン分の沈着により全体的に赤褐色を呈す。Ⅱ-2-①層の上部は削平され不明だが、上部に展開していたと考えられる水田層（Ⅱ-1層）の床土層でもある。Ⅱ-2-②層は黄灰色シルト層。径1㎜未満のきめの細かい白色砂粒を含む。層上面は、細かな凹凸が多数見られる。Ⅱ-2-③層は浅黄色砂質シルト。鉄分の沈着によって赤みをおび、下部は砂性が強くなる。

Ⅱ-2-③層直下、現地表下75cmで、灰白色砂礫からなるⅢ層が出土した。Ⅲ層は、径1㎜の砂粒から径10cmまでの円礫を含む層で、自然河川堆積層である。現地表下約130cmまで掘り下げを行ったが、なおⅢ層が続いている。

以上、1トレンチ内では、建物の余掘りの痕跡はみられず、余掘り範囲は犬走りより北側に収まると考えられる。また、遺物は出土してない。

（3）2トレンチ（図9-②、写真13～16）

中庭北東部に、本館廊下犬走りの南端から南に約2.5m、幅約1.0mのトレンチである。

現地表下約10cmまで腐植土を主体としⅠ層が続く。Ⅰ層直下でⅡ-1層が出土した。Ⅱ-1層は、上部の大半を削平され、水田層の一部か、それとも溝などの埋土か判別が難しい。Ⅱ-1層は2層に細分が可能である。Ⅱ-1-①層はにぶい黄色砂質シルトで、径1～3㎜の白色砂礫を多く含む。Ⅱ-1-②層は灰黄色砂質土で、径1～2㎜の白色粒が多く混じる。下部層であるⅡ-2-①層に比して白色粒の割合は少なく、鉄分の沈着により赤みをおびる。水田耕作土の可能性がある。

上層水田Ⅱ-1層の直下で、下層水田Ⅱ-2層が出土した。Ⅱ-2層は4層に分層できる。Ⅱ-2-①層は、灰黄色砂礫土。径2～3㎜の白色砂礫を多く含み、鉄分の沈着により全体に赤みをおびている。水田耕作土であるⅡ-2-②層を覆うように堆積する洪水砂である。Ⅱ-2-②層は、黄灰色砂質シルト。径1㎜前後の白色砂を含んでいる。水田耕作土と考えられる。Ⅱ-2-③層は浅黄色砂質土。きめが細かく、径3cm前後の円礫が少量混じる。水田耕作土にあたる。Ⅱ-2-④層は、トレンチ南側のみで確認できた。灰黄色を呈するきめの細かい砂質土である。

Ⅱ-2層直下では、灰白色砂礫からなるⅢ層を検出した。現地表下約120cmまで掘り下げたが、Ⅲ層が続いている。

本館建築時の余掘りと考えられる掘り込みをトレンチ北端で確認できた。掘り込みは、現地表下約120cmでは、廊下犬走り直下に収まっている。

また、2トレンチでは、2点の遺物が出土した。1点は、西壁のⅡ-1-①層中から出土した土師器の胴部破片。もう1点は、東壁のⅡ-2-②層とⅡ-2-③層の層界から出土した土師器皿の底部破片である。土師器皿は内面が黒色を呈する。どちらも小片であり、詳細な年代を特定するには到らなかった。

（4）3トレンチ（図9-③、写真17・18）

中庭南側の校舎壁際に、校舎建築時の余掘り幅を特定するために設定したトレンチである。東西約1.6m、南北約2.5mを測る。

表土層を掘り下げると、余掘り埋め戻し土があらわれた。しまりがなく、調査途中に崩落が度々起こった。その中で、トレンチ北壁でようやく、余掘り北壁の一部を確認できた。1・2トレンチでみられたⅢ層の灰白色砂礫層である。掘削計画深度の地現地表下120cmでは、校舎外壁から1.8mまでが、余掘り範囲であると判断した。

3　調査の成果

1・2トレンチにおいては、Ⅲ層上部で水田層が出土した。水田層から出土した遺物は、土師器の小片・細片が2点のみで、時期を特定できなかった。しかし、周辺の既往調査、特に松山市教育委員会による岩崎遺跡の調査や埋蔵文化財調査室で実施した持田団地構内遺跡1次調査（調査番号：00604）のデータを参考にすると、水田の時期を絞り込むことが可能である（図3）。

今回の調査地点から南へ約100mに位置する持田団地構内遺跡1次調査では、Ⅲ層上部に15世紀後半以降の水田層の広がりが確認されている。また、今回の調査地点から東へ130mに位置する岩崎遺跡Ⅰ-3区で

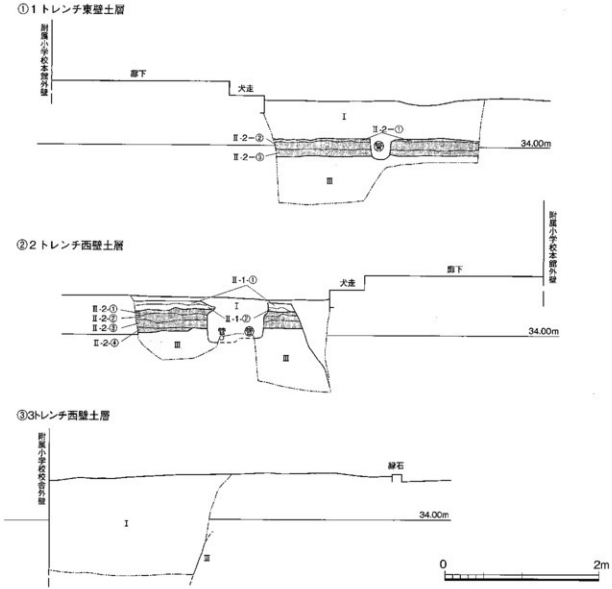


図9　00702調査1～3トレンチ土層断面図（縮尺 1/50）

は、13世紀までに堆積した埋没中洲（持田団地基本層序Ⅲ層に対応）の上部に、15世紀後半前後に位置づけられる水田層が確認されている。この水田層の検出標高は、35.0m前後である。本試掘調査のⅢ層上部に展開する下層水田Ⅱ-2層の検出標高は34.0～34.5mであり、岩崎遺跡Ⅰ-3区の水田と最大で1mの差が生じるが、東から西に下っていく持田団地周辺の旧地形を考慮するならば、下層水田Ⅱ-2層は15世紀後半前後と推定される。また、持田団地構内遺跡1次調査では15世紀後半前後に複数枚の水田層が認められ、今回の上層水田についても、15世紀後半前後に遡る可能性がある。

以上の調査結果から、今回計画されている附属小学校本館及び中庭南側校舎に耐震補強工事による埋蔵文化財への影響は、以下のようにまとめられる。

①附属小学校本館耐震ＰＣフレーム設置に伴う基礎工事

本館南側では、廊下犬走りより南では本館建設時の余掘りがおよばず1トレンチでは現地表下約50cm、2トレンチでも現地表下約20cmで、15世紀後半前後と推定される水田層（Ⅱ-2層）があらわれる。また、Ⅱ-2層直下であらわれるⅢ層の灰白色砂礫層は、今回の調査では遺物は出土していないが、岩崎遺跡Ⅰ-3区の13世紀までに堆積した埋没中洲に対応し、弥生時代

写真11　00702調査１トレンチ遠景（東から）

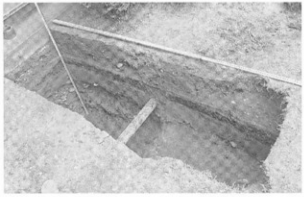


写真12　00702調査１トレンチ土層断面（南西から）

写真13　00702調査２トレンチ遠景（西から）

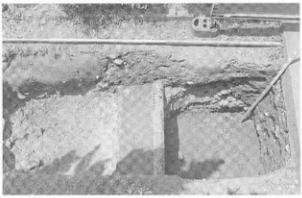


写真14　00702調査２トレンチ全景（東から）

写真15　00702調査２トレンチ南半部西壁土層断面（北東から）

写真16　00702調査２トレンチ北半部西壁土層断面（東から）

写真17　00702調査３トレンチ遠景（東から）

写真18　00702調査３トレンチ土層断面（東から）

～13世紀までの遺物が包含されている可能性が高い。

工事では、建物外壁から1.4～3.9mの間を現地表下170cmまで掘削する計画であり、こうした埋蔵文化財が破壊されることとなる。

②附属小学校本館南側での管路埋設工事

工事に伴う掘削深度は現地表下30cmまでであるが、上記①で述べたように、15世紀後半前後と推定される氷田層（Ⅱ-2層）を破壊することとなる。

③中庭南側校舎の耐震補強ブレース設置工事

校舎外壁から1.8mまで建築時の余掘り工事で既に埋蔵文化財は破壊されている。工事は校舎外壁から1.8mまでであり、余掘り範囲に収まることから、埋蔵文化財には影響はないものと判断する。　（三吉・吉田）

00703　（城北団地）法文学部講義棟耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　3.0㎡
調査期間　2007年５月21日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月10日付）

1　調査にいたる経緯

大学構内の既設建物の耐震補強工事として、法文学部講義棟では玄関部分に耐震補強が施工されることとなった。施設基盤部から埋蔵文化財調査室に提示された工事計画では、講義棟北側の玄関周辺を、東西25.6m、南北幅約4.3m、深さ195cmまで掘削されることとなる。しかし、講義棟建物の余掘り範囲は、既往の調査では明らかではなく、その確認のため試掘調査を実施した。

2　調査の記録

今回の調査では、工事計画範囲の西半部に、南北2.3

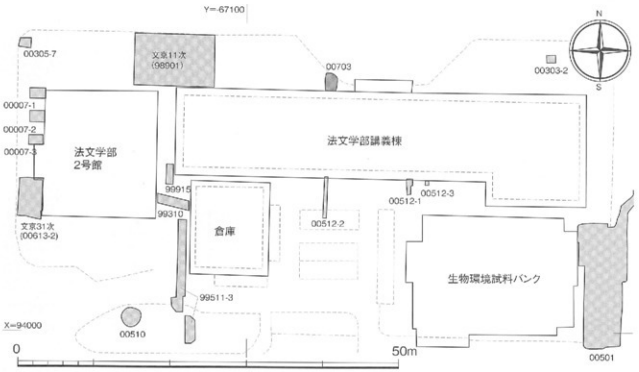


図10　00703調査地点位置図（縮尺 1/500）

m、幅1.0mの試掘トレンチを設定した。しかし、トレンチ西半部でコンクリート基礎があらわれ、トレンチを東側に拡張した。結果、トレンチは幅1.6mの矩形となった（図10、写真19）。

重機を用いて造成土のⅠ層を掘り下げると、地表下45cmで城北団地基本層序のⅡ層、さらに70cmでⅢ層がトレンチ全面にあらわれた。ところが、コンクリートの犬走り部分と接するトレンチ南壁では、Ⅱ・Ⅲ層が攪乱されていた。そこで、講義棟建物の余掘り範囲は、ほぼ犬走り部分、建物外壁から0.95mまでの範囲であると判断した。

工事に伴って掘削される範囲は、建物外壁から約4.3mである。後述するように、工事に伴って発掘調査が必要と判断したので、トレンチの東壁に沿って幅20cmを帯状に深掘りして、Ⅲ層の堆積状況を確認した。Ⅲ層は15～20cmの厚さを測り、地表下76cmほどでⅣ層があらわれる。各層位の特徴は、以下の通りである（図11、写真20）。

Ⅰ層は造成土層。Ⅱ層は団地造成以前の近世～近代の水田層である。Ⅱ-①～Ⅱ-③層に分層できる。Ⅱ-①層は、灰黄褐色砂質土層で、径3～5㎜の角礫が多く混じる。やや粘性をおびるが、しまりは弱い。径5㎜ほどの炭化物片が点々と出土している。Ⅱ-②層は、褐色砂質シルト土層で、径3㎜の角礫がごく少量混じる。Ⅱ-③層は、オリーブ褐色砂質土層。径3～5㎜の角礫が多く混じる。また、黒褐色シルト土の径1～2㎜の小塊が少量混じる。下層のⅢ層が水田耕作によって巻き上げられたものである。土器の細片が数点出土している。

Ⅲ層は、城北団地の大部分で確認される弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色の堆積土で、今回の調査地点で確認できたⅢ層は他の地点と比べて砂質が強い。Ⅲ-①・Ⅲ-②層に分層できる。Ⅲ-①層は、暗褐色粘質シルト土層で、しまりがある。Ⅲ-②層は、暗褐色砂質シルト土層で、Ⅲ-①に比べて黒みを帯びる。調査範囲が狭いこともあり、遺物は出土していない。

Ⅲ層下部からⅣ層への変化は漸移的である。Ⅳ層は、暗オリーブ褐色細砂層で、上部には径1cmほどの黒褐色砂質土塊がごく少量混じる。遺物は出土していない。しかし、Ⅳ層の最上部の堆積状況は、西へ14mほど離れた文京遺跡11次調査区（調査番号：98901）で縄文時代後期の野外炉や遺物が出土したⅣ層と共通している。そのため、今回の調査地点でも、Ⅳ層に縄文時代の遺構と遺物が包含されている可能性が高い。

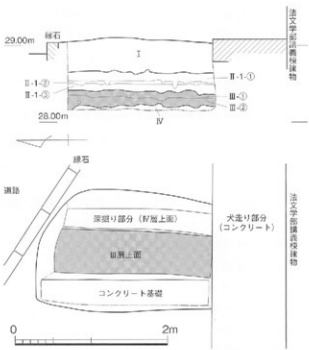


図11　00703調査トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

写真19　00703調査地点遠景（北東から）

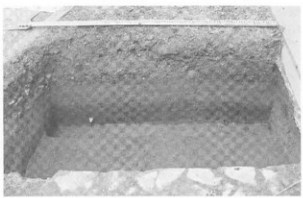


写真20　00703調査トレンチ土層断面（西から）

3　調査の成果

今回の調査では、

①法文学部講義棟建物の余掘り範囲は、犬走り部分（建物外壁から0.95m）までであること、

②余掘り範囲の北側には、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含するⅢ層が良好な状態で残されていること、

③講義棟北側にひろがるⅣ層には、縄文時代の遺構と遺物が包含されている可能性が高いこと、

を明らかにできた。

以上の調査結果から、今回の工事に伴う工事計画が法文学部講義棟建物の北側に沿った東西25.6m、外壁から北へ約4.3m、地表下195cmまでの掘削であり、これに対して建物余掘り範囲は外壁から0.95mまでで、工事に伴う掘削工事によって埋蔵文化財が破壊されることとなり、事前に発掘調査が必要であることを施設基盤部に報告した。（田崎）

00704　（城北団地）工学部２号館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　1.5㎡
調査期間　2007年５月21日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月10日付）

1　調査にいたる経緯

大学構内の既設建物の耐震補強工事が一括計画される中で、工学部２号館の工事計画が具体化した。工事の具体的内容は、工学部２号館北外壁中央部の２スパンへの制震ブレースの設置である。これに伴う掘削範囲は、外壁から北に1.5m、深さ70cmに及ぶ。そこで、試掘調査を実施し、掘削計画範囲の埋蔵文化財の状況と既設建物余掘り範囲を把握し、埋蔵文化財への影響を極力抑えるよう工事計画の検討を求めた。

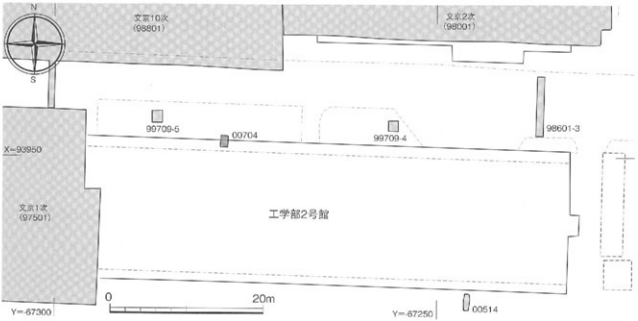


図12　00704調査地点位置図（縮尺 1/500）

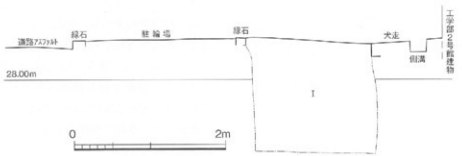


図13　00704調査トレンチ東壁土層断面図（縮尺 1/50）

写真21　00704調査地点遠景（北東から）

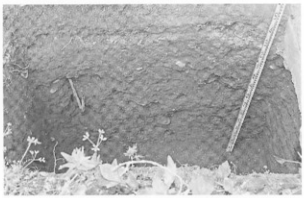


写真22　00704調査トレンチ東壁土層断面（西から）

2　調査の記録

調査地点は、工学部２号館北側中央部（図12・写真21）。調査範囲は、壁際の側溝・コンクリートの犬走り部分と、駐輪場舗装の間、東西幅1.0m、南北長約1.5mである。現地表下約150cmまで掘り下げたが、すべて撹乱を受けた埋め戻しの造成土であった（図13、写真22）。

3　調査の成果

今回の調査地点では、工学部２号館建築時の余掘り範囲は特定できなかった。ただし、周辺では、西側の99709調査５トレンチで外壁から4.5mの位置が撹乱を受けた埋め戻し土で、東側の99709調査４トレンチでは、外壁から3.6mの位置で城北団地基本層序のⅢ層を、地表下90cmで確認している。また、２号館南側については、00514調査区で外壁から2.0mの位置に余掘り範囲を確認している。したがって、工事範囲周辺の余掘り範囲は、外壁から2.4mと3.6mの間にあたると考えられる。したがって、今回の工学部２号館耐震改修工事計画については、周辺埋蔵文化財に影響がないと判断できる。　（吉田）

00705　（城北団地）教育学部２号館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　11.8㎡
調査期間　2007年５月22・23日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月10日付）

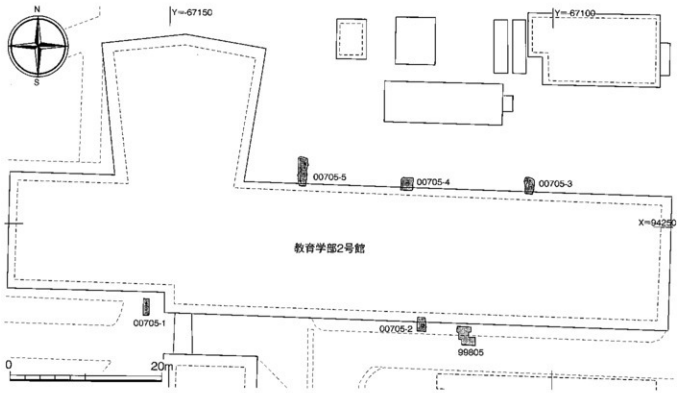


図14　00705調査地点位置図（縮尺 1／500）

1　調査にいたる経緯

教育学部２号館の耐震補強工事計画として、以下の工事計画が施設基盤部から埋蔵文化財調査室に提示された。

工事①：教育学部２号館の南北外壁３ヶ所（南壁中央部、北壁西部、北壁東部）への地中梁増設で、外壁から1.65m、深さ230cmの掘削を行う。

工事②：教育学部２号館の外壁柱部への炭素補強に伴う、外壁から1.5m、深さ100cmの掘削を行う。

工事③：教育学部２号館玄関西側部の増築で、外壁から最大3.75mの範囲を80cm掘削。

この中で、工事②については、設計図にある建築時の余掘り内に収まると予想できたが、工事①・③については、これまで建物余掘り範囲を把握できていないので、試掘調査を実施した。

2　調査の記録

調査地点は、当初３ヶ所を予定していたが、既設の埋設物があり、２ヶ所を追加し、計５ヶ所の調査となった。調査順に１～５トレンチとして調査を進めた。（図14）。

（1）１トレンチ（図15-①、写真23・24）

工事③（教育学部２号館玄関西側部の増築）に関わる調査区である。２号館建物に接してスロープがあり、建物外壁から南へ２m離れた地点に南北2.1m、東西0.7mのトレンチを設定した。

重機と人力によって団地造成土である城北団地基本層序のⅠ層を掘り下げ、現地表下70cmで近世～近代の水田層である同Ⅱ層、105cmで同Ⅲ層、115cmで同Ⅳ層が出土した。

Ⅱ層はⅡ-1-①層とⅡ-1-②層の２層に細分できる。Ⅱ-1-①層は灰黄褐色砂質土で、しまりがあり、径３～７㎜の砂礫を多く含む。近世と考えられる土師器片が２点出土した。Ⅱ-1-②層は灰黄褐色砂質土で、Ⅱ-1-①層より黄色みをおび、径２～８㎜の砂礫を多く含む。Ⅲ層は暗褐色砂質土で、径４～５㎜の砂礫や円礫が多く混じる。弥生～古墳時代の遺物包含層である。Ⅳ層は２層に細分できる。Ⅳ-１層はにぶい黄褐色砂質土で、径４～５㎜の砂礫が多く混じる。Ⅳ-２層は灰褐色砂層で、きめが粗い。径１～２cmの円礫が少量混じる。Ⅳ層を150cmまで掘り下げたが、なおⅣ層が続いている。

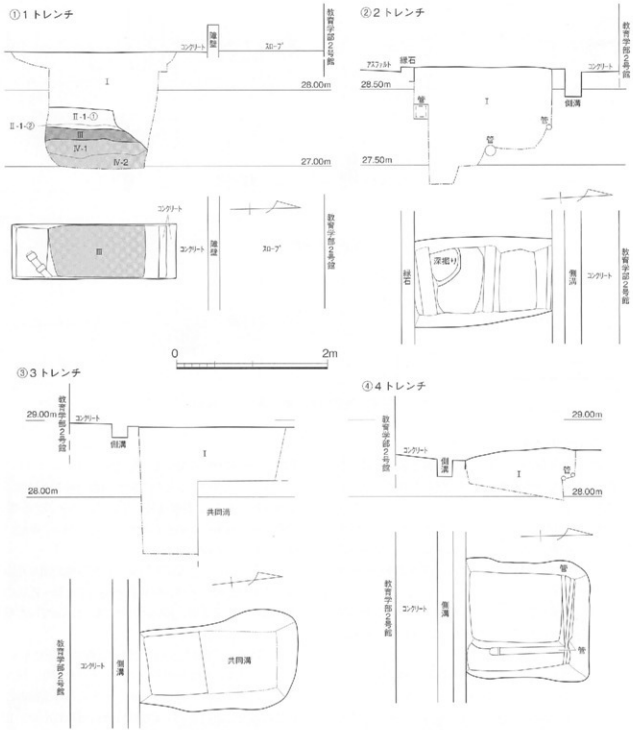


図15　00705調査1～4トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1／50）

トレンチ内では建物建設に伴う明確な余掘りラインは確認できなかった。スロープあるいはコンクリートの下部に余掘りラインがあるものと判断される。

（2）2トレンチ（図15-②、写真25・26）

工事①（教育学部2号館南壁中央部）に関する調査区である。工事計画範囲内の植栽部分に設定した南北約1.8m、東西約1.0mのトレンチである。北壁際とトレンチ中央部で配管があらわれ、かつコンクリート塊等を含んだ埋め戻し土のため、掘り下げは十分でない。トレンチ南西部を部分的に現地表下約150cmまで深掘

写真23　00705調査１トレンチ遠景（南から）

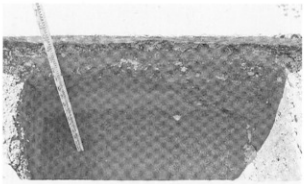


写真24　00705調査１トレンチ土層断面（東から）

写真25　00705調査２トレンチ遠景（西から）

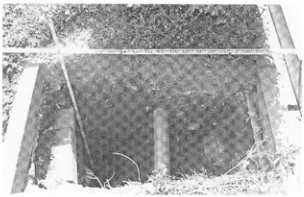


写真26　00705調査２トレンチ土層断面（東から）

写真27　00705調査３・４トレンチ遠景（東から）

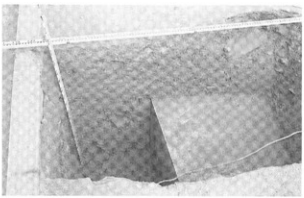


写真28　00705調査３トレンチ土層断面（東から）

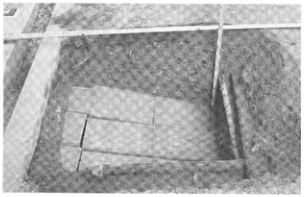


写真29　00705調査４トレンチ（東から）

写真30　00705調査５トレンチ遠景（北東から）

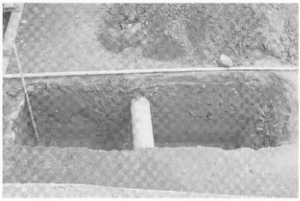


写真31　00705調査５トレンチ土層断面（東から）

写真32　00705調査５トレンチ東半部土層断面（東から）

りを行ったが、やはり埋め戻し土が続く。中央部の管路底より30cm以上低く、この管路埋設に伴う掘り形とはみられない。また、２トレンチの東側に位置する99805調査区では、現地表下約100cmまで攪乱がおよんでいた。したがって、この地点では、植栽範囲内、すなわち外壁から約2.6mまでが、教育学部２号館建築時の余掘り内に収まるものと考える。

（3）３トレンチ（図15-③、写真27・28）

工事①（教育学部２号館北壁西部）に関する調査区で、犬走りと側溝に接して南北2.0m、東西約1.0mのトレンチを設定した。ところが、現地表下約70cmで、共同溝天井がトレンチ内北半にあらわれた。共同溝は東西方向に走るが、教育学部２号館とはやや斜交し、西側で建物寄りとなる。共同溝南側を現地表下約165cmまで掘り下げたが、なお埋め戻し土が続く。この埋め戻し土が、共同溝設置に関わるものか、教育学部２号館建築に関わるものかは不明である。

（4）４トレンチ（図15-④、写真27・29）

３トレンチにおいて、教育学部２号館北側の余掘り範囲が特定できなかったため、工事①（教育学部２号館北壁東部）についても、別途調査区を設定することとした。工事地点は支障物が存在するため、東側に隣接する地点に設定した。重機掘削直後、調査区東壁際で南北の管路、北側でも東西方向の管路があらわれた。さらに、現地表下40～60cmの位置には、北側に傾いたトラフが調査範囲全面にあらわれ、これ以上の調査は断念せざるを得ない状況となった。なお、調査範囲は南北約1.6m、東西約1.6mである。

（5）５トレンチ（図16、写真30～32）

４トレンチに替わり、工事①（教育学部２号館北壁東部）の西側、教育学部２号館北側の犬走りと側溝に接して南北約3.8m、東西幅約1.1mで設けたトレンチである。

重機を用いてⅠ層を掘り下げると、地表下25cmでトレンチ中央部を東西に走るヒューム管が出土した。さらに、現地表下85cmまでⅠ層を掘り下げると、建物外壁から2.1m以北でⅡ層が出土した。それ以南はⅠ層が全面に広がり、外壁から2.1mまでが建物余掘り範囲と考えられる。トレンチ北部でⅡ層を掘り下げると、現地表下108cmで自然流路と考えられるSR-１が出土した。SR-１の堆積状況の確認するため、トレンチ西壁沿約20cmを現地表下125cmまで深掘りしたが、なおSR-１の埋積土が続いている。

各層の詳細は以下の通り。団地造成以前の近世～近代の水田層であるⅡ層は、Ⅱ-１-①層～Ⅱ-１-③層に細分でき、いずれも水田耕作土である。Ⅱ-１-①層は灰オリーブ色シルトで径１㎜未満の砂粒が混じる。Ⅱ-１-②層はオリーブ色シルトで、径1㎜前後の砂粒を含む。Ⅱ-１-①層に比して砂粒が多い。鉄分の沈着により一部黄色を呈する。Ⅱ-１-③層は暗灰黄色シルトで、径１㎜未満の白色粒が少量混じる。

SR-１の埋土は確認部分のみでも、３層に細分が可能である。SR-１-①層は黄灰色細砂で、暗灰黄色シルトの径1cm前後の丸いブロックを少量含む。ラミナが発達する。SR-１-②層は黄灰色砂礫層で、径１～５㎜の砂礫が主体となる。暗灰黄色シルトや明黄褐色シルトのブロックなどを含む。ラミナが発達する。SR-１-③層は黄灰色砂質土層で、径１～２㎜の砂粒からなる。SR-１からは遺物が出土しておらず、詳細な時期の特定は不可能だが、Ⅱ層下に堆積していることから、近世以前の自然流路と考えられる。

3　調査の成果

1トレンチでは、現地表下105cmで弥生時代～古墳時代の遺物包含層であるⅢ層があらわれた。2トレンチ及び99805調査区の調査結果から、教育学部2号館南側では、外壁から2.6mまで建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されているものと考えられる。また、3～5トレンチの調査結果から、教育学部2号館北側では、外壁から2.1mまで建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。

したがって、工事①については、2～5トレンチの調査結果から、工事計画範囲では既に埋蔵文化財は破壊されているものと判断できる。工事②については、前述したように、設計図にある柱基礎の直上に収まり、建築時の余掘り内に収まる。工事③については、掘削深度が現地表下80cmまでであり、1トレンチの調査結果から、工事によって埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。

（吉田・三吉）

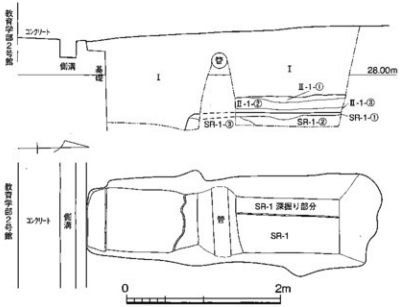


図16　00705調査5トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1／50）

00706　（城北団地）附属図書館耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　18㎡
調査期間　2007年5月23～28日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月10日付）

1　調査にいたる経緯

附属図書館の耐震改修にあたっては、建物外壁5ヶ所への耐震ブレース設置、外壁各所への炭素材補強、東壁北部のコンクリート壁部掘削、スロープ新設、建物西側の増築、建物西側増築部への配管新設、附属図書館と記念講堂の間の配管新設、附属図書館書庫と西棟間の管路新設などの諸工事が計画されている。埋蔵文化財調査室と施設基盤部の協議で、配管工事などについてはできるだけ掘削深度を浅くすることで埋蔵文化財への影響を極力抑えるよう努めることを依頼するとともに、建物余掘り範囲の把握と掘削計画範囲の埋蔵文化財の状況確認のため試掘調査を実施した。調査地点は6ヶ所。調査順に1～6トレンチとした（図17）。

2　調査の記録

（1）1トレンチ（図18、写真33～36）

附属図書館南壁への耐震ブレース設置工事に関わる調査区である。植栽等の支障物により、本来の工事地点の西側、南壁最西部のスパンに、南北約3.5m、東西幅約0.9mの1トレンチを設けた。建物外壁から南へ1.5mの地点に、東西に走る縁石があることから、縁石を挟んで南北を掘り下げた。

建物外壁から南へ2.8mまでの範囲は、重機ならびに人力で造成土のⅠ層を現地表下150cmまで掘り進め、Ⅰ層が続くことを確認した。建物外壁から南へ2.8m以南では、現地表下75cmで城北団地基本層序のⅡ層、さらに110cmで同Ⅳ層を検出した。したがって、図書

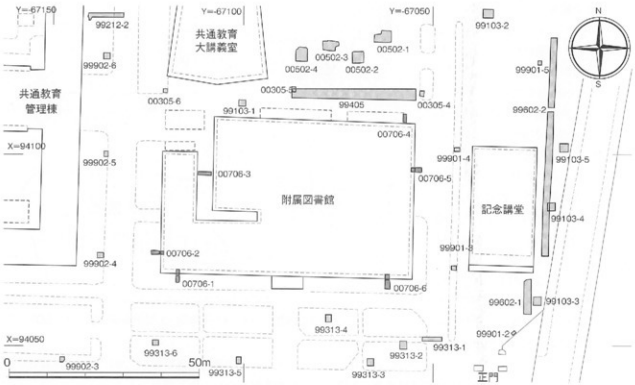


図17　00706調査地点位置図（縮尺 1／1,000）

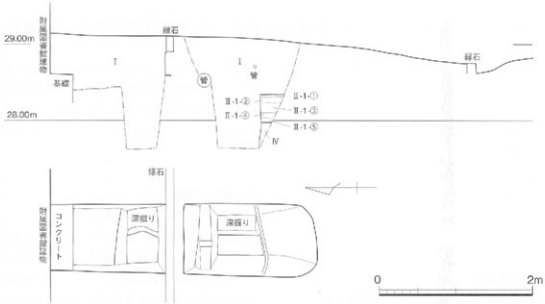


図18　00706調査1トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1／50）

館建物建設に伴う余掘り範囲は、建物外壁から2.8mまでと考えられる。

トレンチ東壁を精査し、Ⅱ層とⅣ層の詳細観察を行った。Ⅱ層は水田耕作土で5層に細分が可能である。Ⅱ-1-①層は、にぶい黄色砂質土で、径1～2㎜の砂礫が混じる。Ⅱ-1-②層は灰黄色砂質シルトで、径1㎜前後の砂粒を含む。Ⅱ-1-③層はにぶい黄色砂質シルトで、径2㎜前後の砂礫が混じる。鉄分の沈着層が

見られる。Ⅱ-1-④層はにぶい黄色シルトで、鉄分の沈着により全体に赤みをおびる。径1㎜前後の砂粒を含む。Ⅱ-1-⑤層は灰黄色砂質土で、径1～2㎜の砂粒が多く混じる。以上のⅡ層から出土した遺物は少ない。その中で、Ⅱ-1-③層から近世の瓦片が出土していることから、Ⅱ-1-③層は近世以降の水田層と考えられる。Ⅱ-1-④・⑤層についても、同時期のものと推測される。Ⅳ層は、にぶい黄色砂質土で、鉄分の沈着により上層は赤みをおびる。層上部にはマンガンの結核を含んでいる。

(2) 2トレンチ（図19、写真37・38）

附属図書館西側では、建物西側への増築工事と、増築に伴う配管新設工事、そして外壁への耐震ブレース設置及び炭素補強工事が計画されている。そこで、西壁南端の1スパンに東西3.3m、南北幅約1.1mのトレンチを設定した。ただし、建物外壁から西へ1mの地点に、南北に走る縁石があり、縁石を挟んで東西部分を掘り下げた。

重機を用いて現地表下80㎝まで掘り下げを行うと、建物外壁から約2.1m以西でⅡ層が出土した。それ以東はⅠ層が続くが、南北に走るヒューム管の掘り形は、管にほぼ接する位置にあたり、管直下は東側の明らかな埋め戻し土とは異なり、コンクリート塊等を含まない。同様の埋土をもつ落ち込みが西壁でも認められ、東南東－西北西方向の攪乱が図書館建築に先行して存在したと考えられる。建物外壁寄りでは、建物外壁から西へ1.2mの縁石の下部で、現地表下100㎝までコンクリート塊等を含むⅠ層が続く。以上のことから、建物余掘り西端ラインは、外壁から1.2～1.7mまでの間にあると考えられる。

Ⅱ層が出土したトレンチ西部は、Ⅱ層以下の堆積関係の把握を目的として南壁にそって幅約50㎝で深掘りを行った。結果、Ⅱ層は現地表下110㎝まで続き、直下でⅣ層が出土した。Ⅳ層はさらに約20㎝掘り下げている。近世～近代の水田層のⅡ層は、2層に細分できる。Ⅱ-1-①層は暗灰黄色シルトで、径1～2㎜の砂礫が少量混じる。Ⅱ-1-②層は灰オリーブ色シルト。径1～2㎜の砂粒が多く混じる。鉄分の沈着により部分的に明黄褐色を呈する。いずれも水田耕作土である。Ⅳ層は、明黄褐色砂質土でⅡ層からの沈着によりマンガンの結核がみられる。

(3) 3トレンチ（図20、写真39～42）

附属図書館書庫と西棟間では管路の新設工事が2ヶ所で計画されている。東西約3.4m、南北幅約0.9mのトレンチを設定した。表土である造成土を掘り下げると、トレンチ内を南北に走る管路があり、トレンチ東半部の管路の間で攪乱を受けていないⅡ層以下を確認できた。

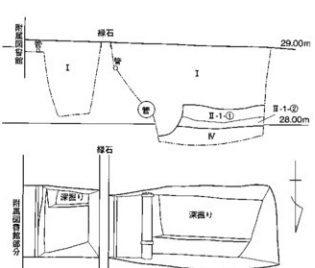


図19　00706調査2トレンチ平面図・土層断面図
（縮尺 1／50）

Ⅱ層は、現地表下約70～90㎝の間に堆積し、①～③層に細分できる。Ⅱ-1-①層は、径1㎜前後の砂粒やⅣ層シルトの塊が混じる暗灰黄シルト質土で、粘性がある。水田耕作土と考えられる。Ⅱ-1-②層は、径1㎜以下の砂粒をやや含んだ黄灰色シルト質土。上面に鉄分が沈着し、しまりがある。水田床土である。Ⅱ-1-③層は、径1㎜前後の砂粒を少し含んでしまりのあるオリーブ褐色シルト質土。これらのⅡ層の下、現地表下約90㎝、標高約28.05mで城北団地基本層序のⅢ層があらわれた。Ⅲ層は暗褐色砂質土で、径1～2㎜の砂粒が混じりマンガン分の沈着が認められる。ややシルト質含み、粘性がある。攪乱部分を深掘りし、Ⅲ層の厚さが約15㎝であることと、以下にⅣ層を確認した。Ⅳ層は黄褐シルト質土で、砂粒をほとんど含まず、粘性がつよい。

建物建築時の余掘りについては、トレンチ東半部の図書館書庫外壁から1.9mの位置で、Ⅲ・Ⅳ層を切り込むラインを確認し、余掘りの掘り形と判断した。また、トレンチ西半部の図書館西棟外壁から約2.7mの位置でⅡ層を切り込むラインを確認し、余掘り範囲を

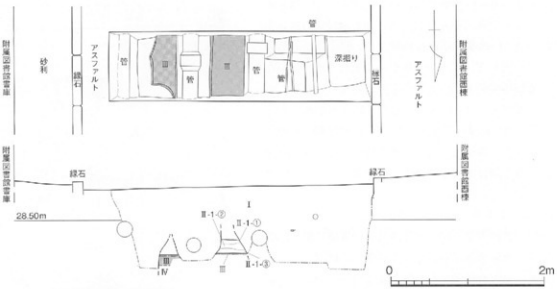


図20　00706調査３トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

示すものと判断した。

（4）４トレンチ（図21、写真43・44）

附属図書館北東部では、北壁への耐震ブレース設置工事とスロープ新設工事が計画されており、北壁東端のスパンに南北2.0m、東西幅1.0mで設定した。

重機を用いて現地表下約50cmまで掘り下げを行うと、建物建設時の余掘りが、建物外壁から1.4mの位置に認められた。それ以北では、基本層序Ⅱ層が広がり、現地表下70cmでⅢ層があらわれた。Ⅲ層の層厚ならびにⅣ層の状況を確認するため、トレンチ西壁に沿って幅20cmを深掘りした。Ⅲ層は約20cmの厚さを測り、現地表下95cmでⅣ層が出土した。

Ⅱ層は黄褐色砂質シルトで、わずかに灰色みをおびる。下部に径３～５㎜の礫がやや多く混じる。Ⅲ層は暗褐色砂質土で、径１～３㎜の砂礫をやや多く含み、径３㎝大の円礫も見られる。Ⅳ層は、Ⅳ-①層とⅣ-②層からなる。Ⅳ-①層はにぶい黄褐色砂質土。Ⅳ-②層はにぶい黄褐色砂層で、Ⅳ-①層より砂性が強く、薄く褐色がかる。

（5）５トレンチ（図22-①、写真45・46）

附属図書館東側では、建物東壁への耐震ブレース設置、東壁北部のコンクリート壁部掘削、附属図書館と記念講堂の間での配管新設の諸工事が計画されている。そこで、建物東壁の中央部に東西2.8m、南北幅1.2mのトレンチを設定した。ただし、建物外壁から1.0mの地点に、東西方向にのびる縁石があるため、縁石を挟んで東西を掘り下げた。

建物外壁から1.9mまでの範囲は、現地表下95～115㎝まで、重機ならびに人力で掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続くことを確認した。管路なども見あたらないことから、建物建設に伴う余掘り範囲と考えた。余掘り範囲外であるトレンチ東部では、現地表下70㎝でⅡ層、さらに75㎝でⅢ層があらわれた。Ⅲ層の残存状況把握のため、トレンチ北壁、南壁に沿ってそれぞれ

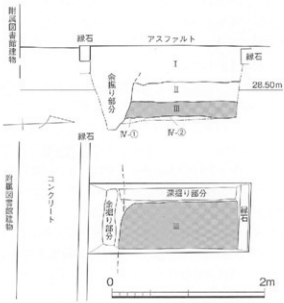


図21　00706調査４トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

写真33　00706調査１トレンチ遠景（南から）

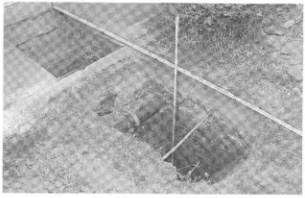


写真34　00706調査１トレンチ全景（南西から）

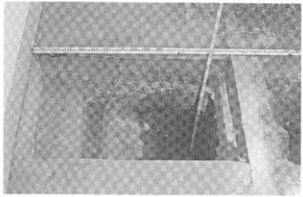


写真35　00706調査１トレンチ北半部土層断面（西から）

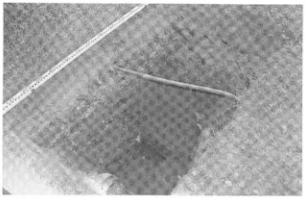


写真36　00706調査１トレンチ南半部土層断面（北西から）

写真37　00706調査２トレンチ遠景（北西から）

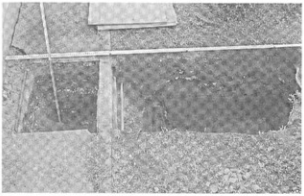


写真38　00706調査２トレンチ土層断面（北から）

写真39　00706調査３トレンチ遠景（北から）

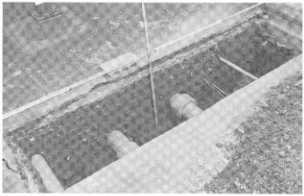


写真40　00706調査３トレンチ全景（北東から）

写真41　00706調査３トレンチ東半部土層断面（北から）

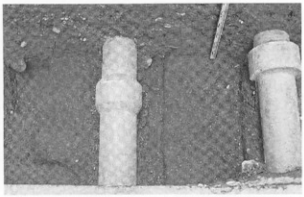


写真42　00706調査３トレンチ西半部土層断面（北から）

写真43　00706調査４トレンチ遠景（北東から）

写真44　00706調査４トレンチ土層断面（北東から）

写真45　00706調査５トレンチ遠景（南東から）

写真46　00706調査５トレンチ全景（南東から）

写真47　00706調査６トレンチ遠景（南東から）

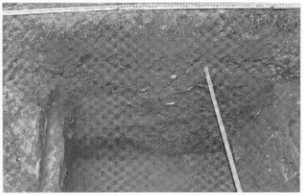


写真48　00706調査６トレンチ南半部土層断面（東から）

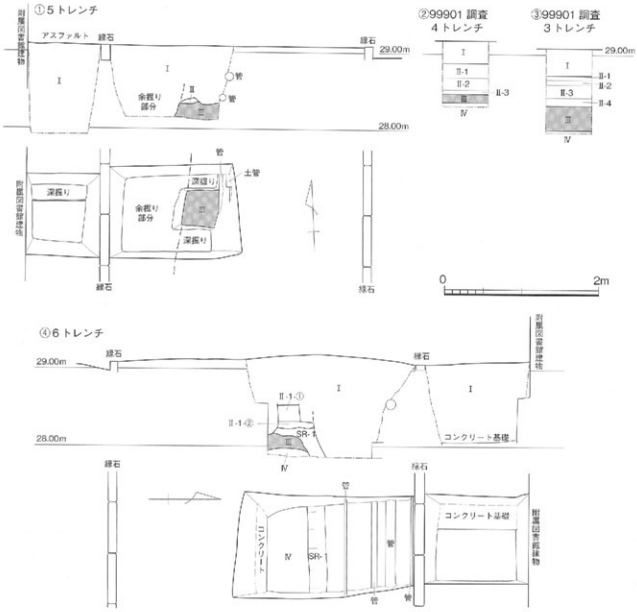


図22　00706調査5・6トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

約20㎝幅で帯状に深掘りを行った。南壁際では約20㎝の厚さのⅢ層下でⅣ層が出土し、北壁際では約20㎝掘り下げてもⅢ層が続く。

Ⅱ層はオリーブ褐色砂質シルトで、近世～近代の水田層である。Ⅲ層は黒褐色砂質シルトで、径1～3㎜の砂礫が多く混じり、径5㎜の炭化物片をごく少量含む。トレンチ内の南北で層厚が異なることから、Ⅲ層は弥生～古墳時代の遺構埋土である可能性が高い。

（6）6トレンチ（図22-④、写真47・48）

附属図書館南棟の外壁には耐震ブレースが設置される計画で、南壁最東部の1スパンに設定した南北3.8m、東西約1.3mの範囲に6トレンチを設定した。

ただし、植栽等のために本来の工事地点の東側にトレンチを設定するとともに、建物外壁から0.85mの地点に東西方向に走る縁石を挟んで南北を調査することとなった。

建物外壁から2.5mまでの範囲は、現地表下100～130㎝まで掘り下げを行い、基本層序である1層が続くことを確認した。管路設置などに伴う撹乱層は見られないことから、建物建設に伴う余掘り範囲と考えられる。余掘り範囲外であるトレンチ南部では、現地表下63㎝でⅡ層、さらに93㎝で自然流路と考えられる

SR-1、103cmでⅢ層、120cmでⅣ層を検出した。

Ⅱ層は近世～近代の水田層で、２層に細分できる。Ⅱ-１-①層はオリーブ褐色シルト。しまりがあり、やや粘性がある。Ⅱ-１-②層は暗オリーブ褐色砂質シルトで、灰色みがⅡ-１-①層よりやや強い。いずれも水田耕作土である。SR-１埋土は、暗灰黄色砂で、径５～10mmの円礫を多く含む。層上部は黄色みが強く、細砂が中心で、径１～３mmの礫を多く含む。層下部は粗砂が堆積する。出土遺物がないため、時期を特定できないが、層位関係から近世以前の自然流路と考えられる。Ⅲ層は暗褐色粘質シルトで、きめが細かい。砂礫をほとんど含まない。Ⅳ層はオリーブ褐色シルトで、きめが細かく、砂礫をほとんど含まない。

３　調査の成果

附属図書館周辺は、北に埋没旧河道をひかえる微高地の北縁部にあたり、今回の各調査区では城北団地基本層序のⅢ層ないしⅣ層が安定的に出土した。Ⅲ層は弥生時代～古墳時代の遺物包含層であり、Ⅳ層も周辺で縄文時代の遺物が出土している。一方、微高地縁辺部から旧河道にかけては、古代後半～中世前期に水田が造成されたことを文京遺跡18次調査Ａ区と25次調査区で面的に確認しているが、今回の各調査区では、その時期まで遡る水田層は確認できなかった。附属図書館周辺の城北団地基本層序のⅡ層は、いずれも近世以降の水田層とみられる。

また、附属図書館南側西部では、１トレンチの調査結果から、建物外壁から2.8mまで建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただし、余掘り外では、現地表下110cmに縄文時代の遺物包含層が存在する。附属図書館西側では、２トレンチの調査結果から、建物外壁から1.2mまでは建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただし、余掘り外では、現地表下110cmに縄文時代の遺物包含層が存在する。附属図書館北西部の書庫と西棟間では、３トレンチの調査結果から、書庫側の余掘りが外壁から1.9m、図書館西棟の余掘りが外壁から2.7mまでおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただしその間は、現地表下90cmに弥生～古墳時代の遺物包含層である Ⅲ層が残存している。附属図書館北側東部では、４トレンチの調査結果から、建物外壁から1.4mまで建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただし、余掘り外では、現地表下約70cmに弥生時代～古墳時代の遺物包含層が存在する。附属図書館東側では、５トレンチの調査結果から、外壁から1.9mまで建築時の余掘りが及び、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただし、余掘り外では、現地表下75cmに弥生時代～古墳時代の遺物包含層が存在する。また、附属図書館南側東部では、６トレンチの調査結果から、建物外壁から2.5mまで建築時の余掘りがおよび、埋蔵文化財は既に破壊されている。ただし、余掘り外では、現地表下93cmに近世以前の自然流路が存在する。

以上から、計画されている諸工事の中で、附属図書館西側の増築工事については、建物外壁から約2.8m、深さ150cmの掘削が計画されており、埋蔵文化財に影響があるものと判断する。また、配管新設工事についても、掘削計画が深さ80cmまでであり、埋蔵文化財に影響がおよぶと考えられる。一方、附属図書館書庫と西棟間での管路新設工事では、南側では深さ105cmまでの掘削、北側でも深さ90cmまでの掘削が計画されており、これについても埋蔵文化財に影響がおよぶと判断する。　（吉田・三吉）

00707　（城北団地）共通教育管理棟耐震改修その他工事計画に伴う試掘調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　27.8㎡
調査期間　2007年５月21～30日
調査種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・吉田広・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・濱田美加

依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年5月10日付）

１　調査にいたる経緯

共通教育管理棟の耐震改修は、第１期工事として2007年度に東棟北半部と北棟・西棟建物について、西棟西側、北棟北南側、東棟東西側での耐震補強基礎設

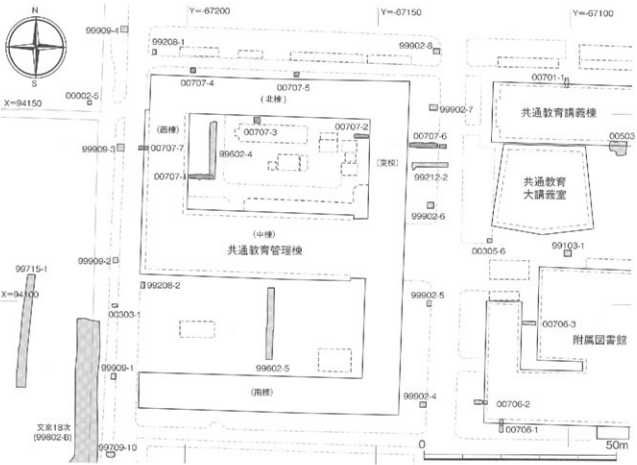


図23　00707調査地点位置図（縮尺 1/1,000）

置、中庭西部での渡り廊下増築、北東角部の増築、東棟中庭側と東側のスロープ設置、東棟から共同溝までの電気配管及び給水管の新設、建物北東部での排水管新設の諸工事が計画されている。埋蔵文化財調査室と施設基盤部の協議で、配管工事などについてはできるだけ掘削深度を浅くすることで埋蔵文化財への影響を極力抑えるよう努めることを依頼するとともに、建物余掘り範囲の把握と掘削計画範囲の埋蔵文化財の状況確認のため試掘調査を実施した。調査地点は7ヶ所で、調査順に1～7トレンチとした（図23）。

2　調査の記録

これまで共通教育管理棟周辺では、外灯基礎工事や情報通信設備工事に伴う小規模で部分的な調査（99212調査2トレンチ、99902調査6～8・13トレンチなど）しか実施されていなかった。比較的大きな調査区を設定して土層堆積状況を確認できたのは、中庭で実施した文京遺跡15次調査4トレンチ（調査番号：99602-4）である。この15次調査4トレンチでは、造成土であるⅠ層を除去すると、団地造成以前の水田層であるⅡ層があらわれた。さらに、Ⅱ層の下層にも水田層と考えられるⅡ'層を確認できた（図24-①）。

そこで、今回の調査では、まず中庭西部の渡り廊下増築工事範囲の1トレンチにおいて、建物余掘り範囲を把握するとともに、土層堆積状況を再確認することとした。その結果、後述するように、15次調査4トレンチのⅡ層とⅡ'層に対応する土層があらわれ、Ⅱ'層に対応する土層は、文京遺跡18次調査で出土した古代～中世前期の水田層（18次調査Ⅱ-2層）と共通する土質と堆積状況を示すことも再確認できた。そこで、今回の調査では、15次調査4トレンチのⅡ層に対応する土層をⅡ-1層、Ⅱ'層に対応する部分をⅡ-2層とした。さらに、15次調査4トレンチⅡ'層の下層でみられたⅤ層とした土層は、ラミナが発達する流水堆積物であることを確認できたので、自然流路SR-1とした。このSR-1は、文京遺跡18次調査A区の自然流路

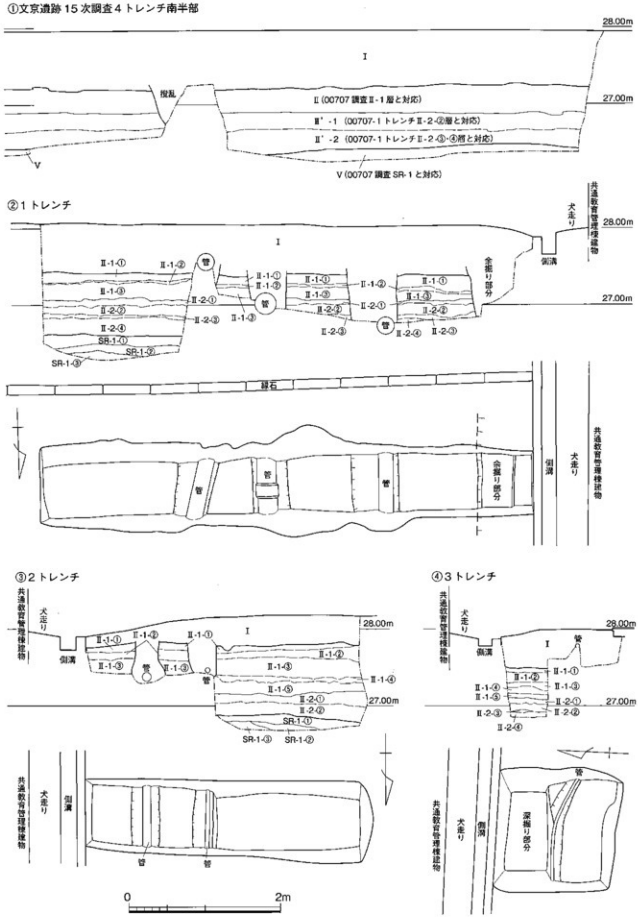


図24　00707調査1～3トレンチ平面図・土層断面図及び文京遺跡14次調査土層断面図（縮尺 1/50）

SR-400につながるものである（図24-①・②）。

以上、今回の調査では、1トレンチの造成土層であるⅠ層、団地造成以前に営まれた近世～近代の水田層のⅡ-1層、古代～中世の水田層の可能性が高いⅡ-2層、その下層の自然流路の堆積物に、団地全域での基本層序Ⅳ層を加えた層準を基準として、共通教育管理棟周辺の1～7トレンチの土層観察を進めることとした。ただし、各調査区で観察できたⅡ-1層、Ⅱ-2層、SR-1を構成する細別層位は、各トレンチでの分層である。

（1）1トレンチ（図24-②、写真49～52）

前述したように、1トレンチを共通教育管理棟の中庭西部に設定した。これは中庭西部での渡り廊下増築工事に関わる調査区である。

トレンチ西端で、建物余掘り部分を確認できた。その範囲は、外壁から1.5mまでである。土層断面を観察すると、造成土層であるⅠ層の下には、水田層とラミナを含む砂礫層が縞状に互層堆積している。その中でも、上部と下部では水田層の土質が異なるので、Ⅱ-1層とⅡ-2層に区分した。また、トレンチ東端部分では、Ⅱ-2層を掘り抜き、下層の土層を確認したところ、ラミナが発達した砂礫層があらわれ、SR-1とした。各土層の構成と特徴は以下の通りである。

Ⅰ層は造成土層。Ⅱ-1層は団地造成以前の近世～近代の水田層である。Ⅱ-1層は中位に砂礫層が挟まる。上部の水田層をⅡ-1-①層、砂礫層をⅡ-1-②層、その下層の水田層をⅡ-1-③層とした。Ⅱ-1-①層は砂礫混じりの灰黄色シルト土層で、土壌化が進み攪拌されている。全体にしまりがない。Ⅱ-1-②層は灰褐色シルト及び微細砂のラミナを観察でき、かなりゆるやかな増水で堆積した砂礫層と考えられる。Ⅱ-1-③層は、砂礫混じりの灰色シルト土層である。土壌化が進み攪拌されている。上層のⅡ-1-②層とは層界部が凹凸のある不整合面をなす。また、下層のⅡ-2-①層との層界部も凹凸が著しい。中位より若干上部と最下部にマンガンの沈着層がほぼ水平に帯状にのびる。数枚の水田層の集積が考えられる。ただし、水田面は最上部のみが残り、他はより上層の水田耕作で削平されているものと考えられる。

Ⅱ-2層は、標高27m前後から下層でみられ、砂礫層と水田層が縞状に堆積する。最上部の砂礫層をⅡ-2-①層として、以下Ⅱ-2-④層まで分層した。Ⅱ-2-①層は灰オリーブ色砂礫層で、径1㎜前後の小礫が多く混じり、シルトや細砂のラミナが観察できる。Ⅱ-2-②層は水田層で、砂礫まじり灰色シルト土層。土壌化が進み、攪拌が著しい。15次調査4トレンチⅡ'-1層に対応する。上面は土層のⅡ-2-①層と不整合面をなし、トレンチ西側では畦状の高まりを確認できた。また、下面も凹凸がある。Ⅱ-2-③・④層は、15次調査4トレンチⅡ'-2層に対応する。Ⅱ-2-③層は、灰オリーブ色砂礫層で、径1㎜前後の小礫が比較的多いが、粗砂が主体を占める。その中に、微細砂やシルトのラミナが発達する。Ⅱ-2-④層は、砂礫混じりの灰オリーブ色シルト土層で、上面は不整合面をなす。上半部の10㎝ほどは、かなり攪拌され、土壌化が進み、砂礫も少ない。これに対して、下半部は径1～2㎜の砂礫が多く混じる。

SR-1の堆積層は①～③層に分層できる。SR-1-①層は径1～2㎜ほどの灰白色砂礫層で、微細砂のラミナが発達する。SR-1-②層は、灰色砂礫層で、径1～3㎜の礫が縞状に堆積する。SR-1-③層は、灰オリーブ色砂礫層で、微細砂や細砂がほぼ水平に縞状に堆積する。

（2）2トレンチ（図24-③、写真53・54）

共通教育管理棟北棟と東棟の中庭側では耐震補強基礎設置と、東棟から中庭側にのびるスロープ設置が計画されており、2トレンチを中庭の北東部に設定した。

造成土層であるⅠ層の下層に、1トレンチと対応するⅡ-1層、Ⅱ-2層、SR-1があらわれた。しかし、調査の目的であった建物余掘り部分は、トレンチ内では検出できなかった。余掘り範囲は、外壁から0.7m以下と判断した。

Ⅱ-1層は、①～⑤層に分層できる。Ⅱ-1-①層は、浅黄色シルト土層で、径2～3㎜の砂礫が多く混じる。Ⅱ-1-②層は灰オリーブ色シルト土層で、径1～2㎝の円礫が混じる。①層に比べて砂礫が少ない。Ⅱ-1-③層はオリーブ黄色シルト土で、径1㎜前後の白色礫が混じる。上部は鉄分の沈着により赤みをおびる。Ⅱ-1-④層は灰オリーブ色砂礫層で、径1～2㎜の白色礫が主体を占める。Ⅱ-1-⑤層は灰オリーブ色シルト土層。径1～2㎜の白色礫が少量混じる。上部は鉄分の沈着によって赤みをおびる。

Ⅱ-2層は、1トレンチと同じく、標高27m前後から下層でみられる。砂礫層であるⅡ-2-①層と、水田層のⅡ-2-②層から構成される。Ⅱ-2-①層は灰色砂礫で、粗砂と径1～3㎜の小礫のラミナが発達する。

写真49　00707調査１トレンチ遠景（東から）

写真50　00707調査１トレンチ全景（北西から）

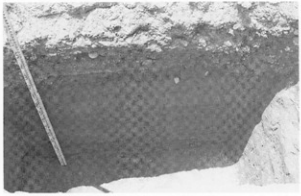


写真51　00707調査１トレンチ東端土層断面（北から）

写真52　00707調査１トレンチ西半部土層断面（北東から）

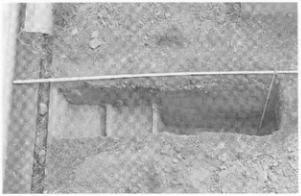


写真53　00707調査２トレンチ全景（北から）

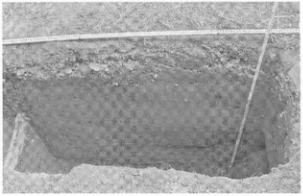


写真54　00707調査２トレンチ西半部土層断面（北から）

写真55　00707調査３トレンチ遠景（南から）

写真56　00707調査３トレンチ土層断面（西から）

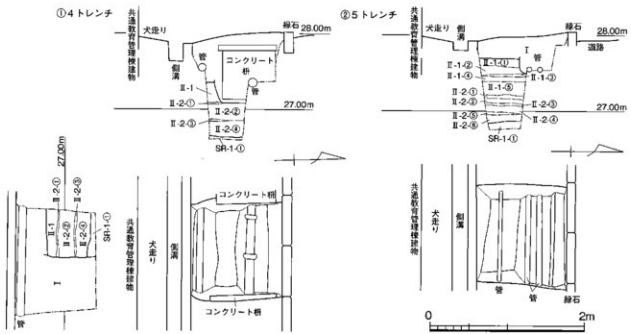


図25　00707調査4・5トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

Ⅱ-2-②層は灰オリーブ色砂質シルト土層。径1～3㎜の礫が混じる。下部には鉄分の沈着層が部分的にみられる。土壌化するとともに撹拌されているので、水田層と判断した。

Ⅱ-2層下では、1トレンチと同じく、ラミナが発達した砂礫層があらわれ、1トレンチのSR-1と同じ自然流路の堆積物と判断した。SR-1の堆積層は、①～③層から構成される。SR-1-①層は灰オリーブ色砂層。径1㎜前後の砂粒からなる。上層のⅡ-2-②層の水田の影響を受けて鉄分の沈着層がみられる。SR-1-②層は灰オリーブ色砂礫層。①・③層より礫の粒径が大きい。SR-1-③層は灰オリーブ色砂層。径1㎜未満の砂粒から構成される。

（3）3トレンチ（図24-④、写真55・56）

北棟南側と東棟西側での耐震補強基礎設置工事にかかわって、共通教育管理棟中庭の北部のほぼ中央に3トレンチを設定した。

造成土層であるⅠ層の掘り下げ中に、東西方向にのびる配管がみつかり、トレンチの北半部だけを深掘りして調査を進めた。ここでも、1・2トレンチと同じく、造成土層であるⅠ層の下層に、Ⅱ-1層とⅡ-2層に対応する土層があらわれた。ただし、建物余掘り部分はトレンチ内では検出できなかった。余掘り範囲は外壁から0.7m以下と判断できる。

Ⅱ-1層は、①～⑤層から構成される。Ⅱ-1-①層はオリーブ褐色砂質土で、1～3㎜大の角礫が多く混じる。Ⅱ-1-②層はオリーブ褐色砂質土。Ⅱ-1-①層とほぼ同質であるが、粘性がやや強い。径1～3㎜の角礫が多く混じる。Ⅱ-1-③層は、オリーブ褐色砂質土で、粘性はⅡ-1-②層よりも強い。2～3㎜大の角礫が少量混じる。Ⅱ-1-④層はオリーブ褐色砂質土で、やや黄色みをおびる。部分的に粘性をおびた部分がある。2～3㎜大の礫が少量混じる。全体的にしまりがない。Ⅱ-1-⑤層はオリーブ褐色砂質土で、1～5㎜大の角礫がかなり多く混じる。しまりのない土質である。

Ⅱ-2層は砂礫層である①・③層と、水田層の②・④層から構成される。Ⅱ-2-①層は、ほぼ標高27mであらわれた。オリーブ褐色砂礫層で、1～5㎜大の角礫がかなり多く混じる。Ⅱ-2-②層はオリーブ褐色砂質土層で、2～6㎜大の角礫が少量混じる。土壌化し、撹拌も著しく、ねばりやしまりがある粘性の強い土層である。Ⅱ-2-③層はオリーブ褐色砂礫層。Ⅱ-2-④層はオリーブ褐色砂質土で、粘性が強く、しまりがある。土壌化が進む。

（4）4トレンチ（図25-①、写真57・58）

北棟北側の耐震補強基礎設置にかかわって、共通教育管理棟北棟の北壁沿いの西部に4トレンチを設定し

写真57　00707調査４トレンチ遠景（北東から）

写真58　00707調査４トレンチ土層断面（北から）

写真59　00707調査５トレンチ遠景（北西から）

写真60　00707調査５トレンチ土層断面（東から）

た。コンクリート柄に挟まれており、造成土層のⅠ層を掘り下げ中に東西方向の配管があらわれたため、トレンチの南半部を人力で深掘りして、建物余掘り範囲と、土層の堆積状況の確認を行った。ただし、余掘り部分と考えられる土層は、トレンチ内では確認されていない。余掘り範囲は、外壁から0.65m以下と判断できる。

一方、トレンチの南壁と西壁で、土層の堆積状況を観察した。Ⅰ層下では、Ⅱ-１層、Ⅱ-２層、SR-１に対応する堆積層を確認できた。

Ⅱ-１層は浅黄色シルト土層で、砂礫が多く混じる。Ⅱ-２層は、標高27mより若干上位で確認でき、ラミナがみられる砂礫層の①・③層と、水田層である②・④層から構成される。Ⅱ-２-①層は灰色砂礫層。Ⅱ-２-②層は砂礫混じりの灰オリーブ色砂質シルト土層。Ⅱ-２-③層は灰色砂礫層。Ⅱ-２-④層は砂礫混じりの灰オリーブ色砂質シルト土層である。

Ⅱ-２層下では灰色粗砂層があらわれた。ラミナが発達しており、他のトレンチでも確認できたSR-１の堆積物と考え、SR-１-①層とした。

（５）５トレンチ（図25-②、写真59・60）

５トレンチは、北棟北側での耐震補強基礎設置にかかわって、北棟の北壁沿いほぼ中央に設定した調査区である。造成土層であるⅠ層を掘り下げ中に東西方向にのびる３本の配管があらわれたため、トレンチの南半部を深掘りして、建物余掘り範囲と、土層の堆積状況の確認を進めることとした。ただし、余掘り部分と考えられる土層は、トレンチ内では確認されていない。余掘り範囲は、４トレンチと同じく、外壁から0.65m以下と判断できる。

５トレンチでは、トレンチ西壁で土層の堆積状況を観察した。Ⅰ層下では、Ⅱ-１層、Ⅱ-２層に対応する堆積層を確認できた。

Ⅱ-１層は、①～⑤層から構成される。Ⅱ-１-①層は灰オリーブ色シルト土層。径１～10㎜の礫が混じる。Ⅱ-１-②層は灰オリーブ色シルト土層で、①層と比べて砂礫は少ない。Ⅱ-１-③層は、オリーブ黄色砂礫層。径１～２㎜の礫を主体とし、部分的にラミナがみられる。層全体に鉄分が沈着しているため、赤みをおびる。Ⅱ-１-④層は灰色シルト土層で、径１～２㎜の白色礫

が少量混じる。Ⅱ-1-⑤層は灰オリーブ色シルト土層。径2㎜の礫が混じる。上部を中心として帯状に鉄分が沈着して赤みをおびる。

Ⅱ-2層は、4トレンチと同じく、標高27mよりも若干上位であらわれた。ラミナがみられる砂礫層の①・③・⑤層、土壌化して攪拌された痕跡をもち水田層と考えた②・④・⑥層が縞状に互層堆積する。Ⅱ-2-①層は、砂礫混じりの灰色シルト土層。径1㎜の礫が多く混じり、ラミナが認められた。Ⅱ-2-②層は、にぶい黄色シルト土層で、鉄分の沈着により赤みをおびる。径1㎜前後の小礫が少量混じる。Ⅱ-2-③層は灰オリーブ色砂層で、径1㎜の小礫が主体を占める。Ⅱ-2-④層は灰オリーブ色シルト土層で、径1～2㎜の礫が混じる。Ⅱ-2-⑤層は灰オリーブ砂礫層で、径1～2㎜の白色礫から構成されている。Ⅱ-2-⑥層は灰オリーブ色シルト土層で、径1～2㎜や径1㎝の白色礫が混じる。

Ⅱ-2層下では、オリーブ黄色砂層があらわれた。他のトレンチでも確認できているSR-1の堆積物の一部と判断し、SR-1-①層とした。砂粒のきめは細かい。上層のⅡ-2層の水田層の影響を受けて、鉄分が沈着しており、全体に赤みをおびる。

（6）6トレンチ（図26、写真61～66）

共通教育管理棟の東棟北半部の東側では、東壁沿いの耐震補強基礎設置、東棟北東角部の増築、東棟から共同溝までの電気配管と給水管・排水管の新設工事が計画されている。そこで、東棟北半部で共同溝までの調査区を設定し、6トレンチとした。トレンチの西端は、建物沿いの犬走り部分までであるが、建物余掘り部分と考えられる土層は確認できなかった。そのため、余掘り範囲は、4・5トレンチと同様に、外壁から0.75m以下と判断できる。

トレンチ全体で、造成土層のⅠ層、Ⅱ-1層、SR-1に対応する土層があらわれ、Ⅱ-2層はみられない。さらに、SR-1下面では、団地全域における基本層序であるⅣ層を検出した。トレンチ東端の共同溝余掘り壁を観察すると、Ⅳ層中に土壌化した土層を確認できたので、その堆積状況を把握するため、トレンチ東端の北壁沿いを幅15㎝ほど帯状に深掘りした。また、プラント・オパール分析試料を採取した。

Ⅱ-1層、SR-1、Ⅳ層の堆積土層は、以下のような特徴をもつ。

Ⅱ-1層は、①・③・⑤・⑦層の水田層と、ラミナ

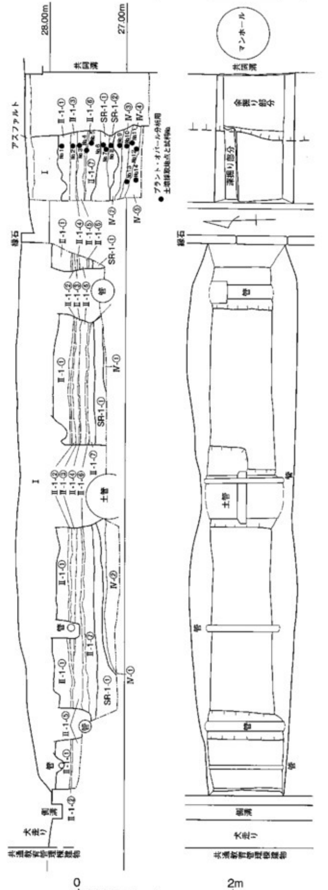


図26　00707調査6トレンチ平面図・土層断面図（縮尺1/50）

写真61　00707調査６トレンチ遠景（南東から）

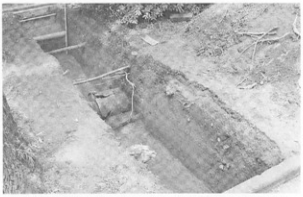


写真62　00707調査６トレンチ全景（南東から）

写真63　00707調査６トレンチ西端土層断面（南東から）

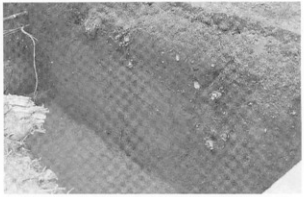


写真64　00707調査東半部土層断面（南東から）

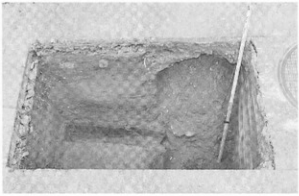


写真65　00707調査６トレンチ東端土層断面（南から）

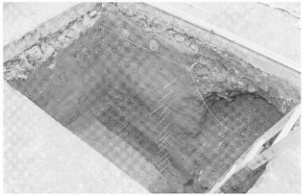


写真66　00707調査６トレンチ東端土壌採取（南東から）

写真67　00707調査７トレンチ遠景（南西から）

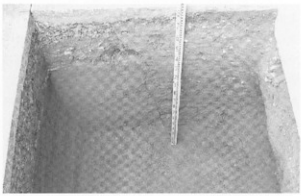


写真68　00707調査７トレンチ土層断面（南から）

がみられる砂礫の②・④・⑥層が縞状に互層堆積する。Ⅱ-1-①層は灰オリーブ色砂質シルト土層で、径1～2㎜の小礫が少量混じる。下部には床土層が形成されている。Ⅱ-1-②層は灰オリーブ色砂礫層で、径1～2㎜の砂礫からなる。ラミナが発達する。Ⅱ-1-③層は灰オリーブ色シルト土層。径1～2㎜の小礫が混じる。Ⅱ-1-④層は灰色砂礫層。径1～2㎜の礫が主体を占め、ラミナがみられる。調査区全面には広がらず、途切れながら部分的にみられる程度である。Ⅱ-1-⑤層はオリーブ黄色シルト層で、径1㎜ほどの小礫が少量混じる。下部には鉄分の沈着層がみられる。Ⅱ-1-⑥層は灰色砂礫層で、径2㎜未満の礫が多く混じる。ラミナが部分的にみられる。中世の三足土鍋の脚部破片が出土した。Ⅱ-1-⑦層は暗灰黄色シルト土層で、径1～2㎜や径5㎜前後の礫が多く混じる。

SR-1に対応する砂礫層は、他のトレンチと比べて、検出した標高は高い。SR-1-①層は灰黄色の砂礫層で、径5㎜までの礫や粗砂からなる。細かな微細砂やシルトのラミナが点々とみられる。SR-1-②層は、トレンチ東端だけでみられる。暗灰色の細砂や粗砂からなる砂層で、ラミナが発達する。

Ⅳ層は、①～⑤層で構成される。Ⅳ-①層は、トレンチ全面に広がり、明黄褐色砂質シルトである。Ⅳ-②層と比べて若干粘性をおびる。Ⅳ-②層は、トレンチ東端と西端で確認できた。灰黄色～浅黄色の細砂や微細砂からなる砂層で、上半部を中心としてマンガンが帯状に沈着する。Ⅳ-③層は、灰色～灰黄色のシルトや微細砂のラミナが縞状に互層堆積する。下部のⅣ-④層との境界付近から縄文後期の条痕調整を施す深鉢胴部の破片が出土した。Ⅳ-④層は淡褐色砂質土層で、微細砂が主体を占める。土壌化が進むとともに、下部に堆積したⅣ-⑤層の径2.5㎜ほどの小塊が混じり込み、攪拌されているものと考えた。Ⅳ-④層は北東にむかって緩やかに落ち込んでいく。Ⅳ-⑤層は灰黄色～灰色の微細砂層で、ラミナが発達する。以上のⅣ層を構成する土層で、Ⅳ-③～⑤層には炭化物片が混じり、とくにⅣ-④層の土壌化した層に多い。

（7）7トレンチ（図27、写真67・68）

共通教育管理棟西棟西側でも耐震補強基礎設置工事が計画されており、西棟中央の通路の出入り口部分に7トレンチを設定した。当初予定していたより範囲は狭くなり、東西1.3m、南北1.0mのトレンチである。

共通教育管理棟の余掘りは、アスファルト直下の砕石と真砂土層を切って掘り込みラインが認められ、以下掘り下げを行った現地表下約180㎝まで続く。外壁からは1.5mの位置である。

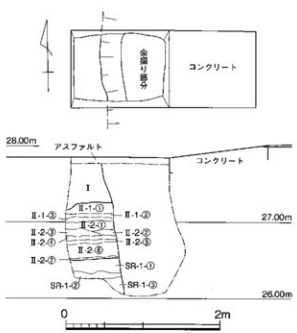


図27　00707調査7トレンチ平面図・土層断面図
（縮尺 1/50）

一方、共通教育管理棟建築時の攪乱がおよんでいない調査区西半では、深さ約60㎝のⅠ層の下で、水田関連土層のⅡ層と砂礫層があらわれた。この中で、標高27mより若干下位で確認した砂礫層以下がⅡ-2層に対応すると考えられる。また、Ⅱ-2層下では、砂礫層があらわれ、他のトレンチのSR-1と対応する堆積土層と判断した。

造成土層であるⅠ層以下のⅡ-1層、Ⅱ-2層、SR-1を構成する堆積土層は、次の通りである。

Ⅱ-1層は、①～③層から構成される。Ⅱ-1-①層は暗灰黄色砂質シルト土層で、径5㎜までの礫が混じる。しまりはやや弱い。水田層である。Ⅱ-1-②層は褐灰色砂質シルト土層で、径5㎜までの礫が少量混じる。上面に鉄分が沈着する。西壁に幅約30㎝、深さ約5㎝の落ち込みを確認した。水田層。Ⅱ-1-③層は黄褐色砂質土層。径5㎜までの礫がやや多く混じる。鉄分が斑状に沈着し、シルト質が混じり、しまりがある。上層のⅡ-1-②層の床土層部分と考えた。

Ⅱ-2層は、①～⑦層から構成される。この中で、①・④・⑥層は砂礫層、③・⑤・⑦層は水田層で、これら